

平成28年度

事業報告書

ともえ学園

平成28年度事業報告書

ともえ学園

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	5	4	4	3	5	4	3	3	3	4	3	4	45
受入回数	9	8	8	6	10	6	7	8	8	8	6	8	92
受入延日数	54	43	50	50	47	22	41	47	49	56	47	55	561

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受入回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受入延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④在所者状況（平成29年3月31日現在）

年齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	1	0	1
25～30歳未満	1	0	1
30～35歳未満	6	0	6
35～40歳未満	6	0	6
40～45歳未満	17	1	18
45～50歳未満	15	1	16
50～55歳未満	14	2	16
55～60歳未満	5	0	5
60～65歳未満	0	0	0
65～70歳未満	1	0	1
計	66	4	70

在園年数	男	女	計
0～1年未満	1	0	1
1～5年未満	2	0	2
5～10年未満	4	0	4
10～15年未満	7	1	8
15～20年未満	9	0	9
20～30年未満	30	3	33
30～35年未満	13	0	13
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	49	3	52
精神発達遅滞	11	0	11
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	29	0	29
5	25	4	29
4	11	0	11
3	1	0	1
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	8	5	1	4	1	2	1	1	2
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	6	9	3	4	1	2	8	5	1	4	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	石川県津幡町	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	2	1	1	0	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	70

(高田孝康)

2 トライアングルグループ

1 グループ目標

- ・利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。
- ・ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

2 生活全般

①目標：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・健康、清潔の維持に努める。

②内容

衣類整理：衣類を洗濯室から自室に持ち帰り、整理し入浴の準備を行う。

- ・パジャマの準備ができれば脱衣室の棚へ持って行く。
- ・棚にパジャマを置き、衣類カゴは洗濯室に返す。
- ・時間を分け、支援の必要な方は職員が側について一緒に行う。

衣類：破けたり、ゴムが伸びた物は、補修したり、新しい物と交換を行った。

- ・季節に応じた衣類を着てもらったり、足りない物は、購入した。
 - ・身だしなみについても正しい着こなしが出来る様に支援を行った。
 - ・名前が消えた衣類について名前を書く。
- 食 事：自分で配膳口からセルフでお膳にセットし、席まで運び、摂取する。
- ・安心して食事が出来る様に席にも配慮する。
- 入 浴：グループ毎での入浴を行う。洗体、洗髪が行えるよう個別の支援を取り組む。
- ・入浴後皮膚疾患のある利用者には、個々の薬を塗布する。
 - ・踵や手の荒れを防ぐ為、クリームを塗布する。
- 手 洗 い：飲食前やクラブ活動後などに、石鹼を泡立てて手を擦るなど確実な手洗いが行えるよう支援を行った。
- ・手指乾燥機の使用の支援を行った。
- 整 容：朝食後の歯磨き後に洗顔を行う。できない人は、職員が支援を行った。
- ・髭剃りについては職員が全面的に支援を行った。
- シーツ交換：毎週土曜日に更新。できる限り、自分のシーツは、自分で交換をしてもらった。
- ・失禁等で寝具が汚れやすい方については、個別に敷きパット等を使用し、なるべく寝具が汚れないように配慮した。
 - ・シーツが汚れたときは、速やかに交換を行った。
- 日 用 品：在庫確認による常備を行った。
- ・早めの発注を心掛けたが、在庫不足が生じ、係以外の職員が発注した。
 - ・月1回血圧、体組成測定、腹囲測定を行い増減をチェックする。
 - ・毎週日曜日の午後、爪切り、耳掃除
- ③経過・課題：シーツ交換は、職員の支援によってできる人が増え定着してきた。
- ・課題としては、手洗いや手指乾燥などが不確実な利用者が多いため、今後も継続し手洗いができるよう取り組む必要がある。
 - ・下着シャツが出たままになっていたり、汚れた衣類を着ていたり破けた衣類を着ていた事もあるので身だしなみを確実に気をつけていく。
 - ・衣類の不足がないように早めに購入をしていく。
 - ・季節と体にあった衣類の提供をしていく。

3 口腔ケア

- ①目的：口腔内の残渣物除去を行う。
- ・利用者の健康維持管理を目指す。
- ②内容：日々の歯磨き支援に加えて、丁寧にブラッシングをし、口腔内のチェック等を利用者一名につき月二回実施した。
- ③経過、課題、まとめ
- ・昼食後、2名ずつ口腔ケアを実施した。
 - ・年に1回の歯科受診の結果を利用者毎にパソコンへ保存した。
 - ・その結果を元に虫歯や歯の動揺等が見られる利用者から歯科受診へ行ってもらった。
 - ・歯周、歯肉炎予防の為、2月からコンクールを毎日1回昼食後の歯磨き時に使用し始めた。
 - ・2月、個室対応になった利用者があり、感染対策で室内での口腔ケアになった為、口腔内を清潔に保つことが難しかった。

- ・口腔ケアを確実に実施することで1年を通して健康に過ごしてもらいたいと思う。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。

4 清掃

①目的：生活棟の清潔を保つ

②内容：一日、3回のモップでの床拭き掃除を行う。(居室は一日一回)

- ・ドアノブなどの拭き上げをクロスを使用して行う。
- ・トイレ掃除を一日3回定期的に行い、汚れなどがあつたと時には速やかに清掃した。
- ・汚れている布団やシーツはその都度交換した。
- ・湿度の低いときには、感染予防の為、加湿を行った。
- ・一日一回天窓を開けて換気を行った。

③経過・課題

- ・洗剤を使った床のモップ掛け(1日3回)やドアノブ拭き(1日1回)を行った。
- ・布団乾燥については、天気の良い時には、外へ干した。
- ・日課の変更により、グレーチングやフィルター交換が出来ていない事が見られた。
- ・定期的に空気の入換えをし、必要に応じて加湿器を使用し感染予防をおこなった。
- ・居室の掃除がほとんど出来なかった。1日に1部屋でもしていく必要があると思う。
- ・トイレや居室で異臭がすることがある為、消臭剤等の物品が必要だと思う。

5 日課

クラブ活動

①目標：午前・午後と活動着に更衣をして活動を行う。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容

・午前、午後

- クリーンクラブ・・・生活棟内の清掃(床拭き、窓拭き、ドアノブ部拭き)
- 環境クラブ・・・石、雑草や倒木の運搬、落ち葉集め
- 作物クラブ・・・畑、プランターを使用した作物作り

③経過

- ・バケツを人数分購入する。石拾いや腐葉土集めに使用した。1年間を通して定着できたと思う。
- ・年度当初は活動着に更衣する習慣が出来ていなかったが、日にちを重ねる毎に、声掛けで更衣が出来るようになった。
- ・畑での野菜作りを行った。胡瓜、茄子、ミニトマト、オクラ、大根、ジャガイモ、ピーマン、レタス、南瓜、スイカ 生姜 ニンニク等を収穫できた。収穫する喜びを感じてもらった。
- ・収穫した野菜は、厨房へ提供し、利用者の副食の具材にしてもらった。
- ・毎月末、慰労会を行い、収穫した野菜を試食してもらった。
- ・プランターへの花を植えた。ペチニア ビオラ、チューリップ、ポーチラカ、ひまわり、トレニア、葉牡丹など

④課題

- ・見守りが必要な利用者が増えたことでなかなか全員参加での活動が難しくなってきた。

- ・対応方法や活動内容を検討して全員参加できるように考えて行く。
- ・冬期は、外での活動ができないので、室内での活動内容を考える。

作品作り

- ①目的：少人数で作品を作ることで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋がっていく。
- ・作品作りを通して利用者がどんな作業ができるかを探し出す。
 - ・できあがった作品を見ることで季節を感じたり、気分転換の一助にする。
- ②内容：利用者が、鎖編みをした毛糸を使用し、作品を作った。
- ・トライアングル利用者の顔を毛糸で表し、背景はピンクの砂で装飾を行った。
 - ・行事前に、その行事に合わせて作品作りを行った。
(クリスマスリース、獅子舞、赤鬼、青鬼、雛様)
- ③経過・課題
- ・特定の利用者だけの参加になっていた。
 - ・手を添えると毛糸を貼れる利用者もいるので、一人ひとりにあった支援を行い参加してもらおう。

個別活動

- ①目的：少人数で活動をする事により利用者への理解を深め、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上につなげていく。
- ②内容：特に決まった時間を設けることはなく利用者にあった活動を職員と一対一や二対二で行った(フラワーアレンジメント、書道、計算ドリル、漢字ドリル、文字を書く練習、塗り絵、編み物、ピアノ演奏、絵本、ウォーキング、テレビゲーム、ジグソーパズル、椅子トレ体操、食ベトレ体操、音楽鑑賞、読書、カレンダーを利用したコミュニケーション)。
- ③経過・課題
- ・職員一人ひとりが個別活動を各利用者の施設サービス計画書短期に反映し、利用者の新たな一面を発見するよう努めることができた。
 - ・受診等の予期せぬ出来事により職員数が足りない場合などには取り組めないこともあった。

地域交流

- ①目的：地域の人とコミュニケーションを図る。
地域で農業体験をする事で気分転換を図る。
個別(少人数)で参加し、出来る事を見つけて行く。
職員も農園で体験することで、活動への視野を広げていく。
- ②内容： 7月16日 2名参加 里芋、南瓜、スイカの畑の草取り
9月17日 2名参加 ビニールハウスの草取り
10月15日 2名参加 南瓜、玉葱の畑の処理と草取り
11月19日 2名参加 里芋の茎の処分と畑の草取り
- ・作業終了後は、農園の方からお茶とお菓子を頂き、一緒に食べる事で、コミュニケーションを取ることができた。
- ③経過・課題
- ・回数を重ねることで利用者もスムーズに作業を行えるようになった。
 - ・作業終了時に間食を頂く事で作業に対する意識が変わっていった。
 - ・利用者が農園の方に自ら話し掛ける事が出来ていた。

- ・職員は、野菜の植え時や植え方等、解らないところを学ぶ事が出来た。
- ・来年度は、農園の方と一緒に苗作り等を行い、学園の畑に苗を植えていきたい。
- ・冬場までは、毎月日程調整を行い実施していきたい。

健康体操

- ①目標：体を動かす事で喜びを見つける。
 - ・継続することで、利用者の変化や好みを観察をする。
- ②内容：ネットくぐりや平均台等を使い普段行わない運動をゲーム感覚で行う。
- ③経過・課題
 - ・自主的に動ける利用者はしっかりと身体を動かす事が出来ており、上手くできない利用者は職員と関わりながら行う事が出来ていた。
 - ・月に一度の健康体操の時間以外は活動することが無かったので、グループの日課のなかでも活動していく。

運動

- ①目的：体力維持、向上を目指す。
 - ・楽しみながら体を動かす。
- ②内容：行事に合わせて出し物の練習、雨天時活動が出来ない日のマット運動、平均台、跳び箱、バスケットボール、フリスビー、自転車乗りなど
- ③経過、課題
 - ・夏季は自転車などを使った運動ができた。プレイルームの場合ではマットや平均台、跳び箱などを円状に配置することで、職員も利用者も動きやすい動線で取り組めた。
 - ・12月から個室対応が増え、グループ間の移動ができなくなった頃から午前、午後とも室内ウォーキングが主体になってきた。
 - ・リビングのテレビで体操などの動画が見れるようになったが、できる利用者とできない利用者があるので、室内ウォーキングを主体にしつつも、できない利用者にも運動ができる工夫が必要と思われる。

6 行事

- ①目標：利用者個々に応じた行事を提供する。
 - ・季節感を実感したり、様々な体験をしてもらえる事で充実した生活を送ってもらう。
 - ・誕生日を意識してもらい楽しい日を過ごす。

②内容

- ・季節の行事

月	日	行事名	参加人数	場所
4	13	お花見会	24名	ハウス横広場
5	3	お楽しみ会	19名	プレイルーム（クレープ作り）
	13	バスハイキング	24名	尾関山
6	3	バスドライブ	25名	みよし公園（カルチャーセンター）
7	8	バスドライブ	25名	風土記の丘
8	6	夏祭り	25名	多目的棟、プレイルーム
9	7	バスドライブ	24名	備北丘陵公園
10	9	レクリエーション	24名	多目的棟・プレイルーム・大作業室

11	4	バスドライブ	23名	みよし公園（カルチャーセンター）
12	7	忘年会	23名	プレイルーム・宿泊室（お茶席）
1	13	新年会	24名	プレイルーム（くじ引き）
2	6	お楽しみ会	25名	プレイルーム（白玉クリームぜんざい）
3	8	お楽しみ会	25名	マクドナルド

・日帰り旅行

月	日	参加人数	場所
4	20	3名	島根県立三瓶自然館サヒメル
5	16	3名	打撃王、イオンモール
	26	3名	平田観光農園
6	9	2名	せらワイナリー
	23	3名	大芝公園「交通ランド」、ガスト八木店
7	21	2名	ガスト・イオン高屋ショッピングセンター・チェルガトー
	27	2名	松江フォーゲルパーク
8	19	2名	由宇カープ二軍練習場
9	12	2名	八天堂カフェリエ、広島空港、しまむら高屋店
10	19	3名	せらワイナリー
11	16	2名	せら夢公園、せらワイナリー
3	22	2名	備北丘陵公園

・誕生者外出、誕生者お祝い会

月	日	行事名	場所・備考
5	2	誕生者お祝い会	セブンイレブン、フタバ図書、センター宿泊室
	17	誕生者お祝い会	セブンイレブン、センター宿泊室
6	6	誕生者外出	庄原上野総合公園、トライアングル宿直室
	17	誕生者外出	しまむら、ジョイフル
7	17	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	25	誕生者外出	フタバ図書、しまむら、コニリア
	25	誕生者お祝い会	センター宿泊室
8	17	誕生者外出	ダイソー、CCプラザ、高谷山
8	26	誕生者外出	西条酒蔵通り（2名での合同外出）
9	26	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	28	誕生者外出	CCプラザ（喫茶店、書店）
10	17	誕生者お祝い会	センター宿泊室
11	11	誕生者外出	風季舎（洋菓子店）、三次公園
	18	誕生者外出	風季舎、センター宿泊室
	28	誕生者外出	おろちの湯、カルチャーセンター、しまむら（2名での合同外出）
12	21	誕生者外出	セブンイレブン（ドライブ）
1	5	誕生者外出	吉田ゆめタウン
	18	誕生者お祝い会	セブンイレブン、トライアングル宿直室（体調不良者が増えた為、午前と午後で買い物とお祝い会を分けて実施）
2	24	誕生者外出	CCプラザ（2名での合同外出）
3	12	誕生者外出	君田湯の森

③まとめ

- ・例年はバスドライブ中心の季節の行事だったが、今年度はお楽しみ会（間食作り等）が多く起案された。作る作業はできる人できない人だったが、見ているだけでも楽しめる内容だったと思う。利用者は落ち着いて待つ事ができ、間食ができるのを待ち切れないといった場面はなかった。
- ・日帰り旅行、誕生者外出、誕生者お祝い会を行った。宿泊旅行を無くした為、その分日帰り旅行を多めに組む。一回の外出で2～3名の利用者と外出になり、しっかりと見守りや支援等が出来ていた。
- ・誕生者お祝い会については、誕生日当日体調が悪かったり、行事の関係でお祝い会の日にちが、ずれることもあった。また、同じ誕生日者や誕生日に近い利用者は、一緒にお祝いを行う事で一日外出を組む事ができた。

7 トライアングルレクリエーション

平成28年10月9日(日) 10:35～14:30 利用者24名 15家族21名参加

①目的：利用者、ご家族、職員、三者の親睦を深め、楽しいひとときを過ごす。

②内容：ガーデニング体験、作品作り、間食作り、映像鑑賞

- ・ガーデニング体験…プランターにペイント、チューリップの球根とビオラの移植
- ・作品作り…写真立てを毛糸や小物で飾る。
- ・間食作り…ジンジャーエール、生姜を利用したお菓子作り
- ・昼食…焼きそば作り

③反省・感想

- ・午前中、時間配分の調整ができておらず、最初のグループがそれぞれ多くの時間をガーデニング体験、映像鑑賞で使ってしまった。ガーデニング体験と映像鑑賞を入れ替わりしてもらったが、時間が少なくなってしまった為、映像鑑賞は中断し、昼食時に映像を流す事となった。ガーデニング体験のグループが終わるまでの間、待ってもらうという形となった。少し映像が長かった為、ある程度の時間を指定しておく必要があった。
- ・昼食の焼きそばはご家族のご協力もあり、スムーズに準備でき食事を開始する事ができた。
- ・午後からの作品作り、間食作りは時間配分通り行え、入れ替わりもスムーズにできた。
- ・作品作りでは、写真立てを毛糸でデコレーションしてもらった。
- ・家族の来られていない利用者へ1対1で職員が付けなかった為、待っている形となっていた。
- ・間食作りでは、時間の関係もあり、それぞれに作ってもらうのではなく、作っている所を見学してもらい、できた物を飲食してもらうようにした。
- ・時間的には丁度良く、ゆっくりと過ごせたのではないかと思う。
- ・前日準備で物品購入の買い物に行ったが、特に問題なく行えた。
- ・家族の方も概ね満足されていた。

8 掲示板

①目的：1日の予定を利用者にわかりやすく提示する。

②内容：ホワイトボードの当日の予定・勤務者・献立を記載する。

③経過、課題

- ・毎日、夜勤者が次の日の要諦を更新した。
- ・マグネットが破けてきたり、使用しなくなる物も出て来るのでその都度更新する。

9 記録

①目的：利用者の写真を、利用者の方が理解される形で提供し、生活を振り返ったり、行事や外出などの思い出を楽しんで頂く。

- ・生活の充実を図る。

②内容：定期的に日常の写真を掲示する。

③経過、課題

- ・写真を掲示すると興味を持って近づいてくる利用者もいた。
- ・張り出された写真を直ぐに剥がし破ってしまう利用者がいた。
- ・破壊行動に繋がるので気軽に見ることが出来ない。
- ・定期的に新しい写真を提供する。
- ・保存することは考えず、提供して行く方が良いのかも知れない。

10 環境

①目的：利用者が生活しやすくなるよう環境整備、棟内の改善を行う。

②内容：ベッドとサッシ、壁の修繕と定期チェック。

- ・テレビの亚克力版設置。
- ・シェーバー保管箱作り。
- ・職員室、衣類掛け設置。

③経過、課題

- ・壁は随時、修理している。
- ・サッシが更新された。順次掃除を行い、きれいな状態を維持していく。
- ・ベッドの更新は必要に応じて随時行っていく。
- ・中庭への出入り口を増設し、下駄箱を設置した。

11 グループ会議

①目的：より良いサービスを提供できるように支援内容、各活動についての課題を協議する。

- ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。
- ・取り組みについての意識統一を図る。

②内容

4月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 栄養課長より 処遇改善
活動 行事 マシン 生活 個別 口腔ケア フラワークラブ 書道クラブ 休憩時間
食堂のテーブル ケースカンファレンス（5名）

5月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 活動 生活 シーツ
食堂のテーブル 床拭き 短期利用者の衣類 ケースカンファレンス（14名）

6月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 服薬 記録
環境 短期利用者の衣類 女性入浴支援 薬塗布 ケースカンファレンス（5名）

7月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 活動
生活 身体拘束記録 ケースカンファレンス（6名）

8月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 口腔ケア 生活 活動
薬付け 福祉の森の記録 室内ウォーキング ケースカンファレンス（1名）

9月 運営会議より 支援部課長会議より 行事 トライアングルレク 生活 文化祭 清掃
クラブ活動 環境 口腔ケア 代替え食 ケースカンファレンス（4名）

10月 運営会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 トライアングルレク 処遇改善

- クラブ活動 健康体操 生活 環境 口腔ケア ケースカンファレンス (6名)
- 11月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 クラブ活動
環境 日誌 うがい 親の会発表会 ケースカンファレンス(4名)
- 12月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 処遇改善 日課 活動
生活 口腔ケア クリスマス会 リハビリ ケースカンファレンス (7名)
- 1月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 活動 生活 エアコン
踵と口唇のケア 昼食後のウォーキング ケースカンファレンス (5名)
- 2月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 活動 生活 環境
食事前の音楽 ケースカンファレンス(7名)
- 3月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 活動 来年度の行事
ケースカンファレンス(10名)

③経過、課題

- ・会議内でのケースカンファレンスでは、不適切な行動がある利用者を中心とし、支援内容の確認を行った。また、2月からは、前の月にサービス担当者会議を行った利用者の取り組みについて、担当職員から報告してもらった。
- ・職員が意見を出せるように司会を務めたつもりだが、同じ職員しか発言が無かった。議題によっては、活発に意見が出て討論ができた会議もあった。
- ・グループの係リーダーへ議題の提出を求めたが、殆ど記入無く残念だった。
- ・夜勤入り、明け職員の議題の収集と、伝達に課題が残った。

1.2 まとめ

- ・クラブ活動については、午前午後と活動に着替えて、実施した。バケツを持って遊歩道へ行き、草や落ち葉を集めて畑まで運搬を行った。畑には、色々な作物を植え、収穫を行った。利用者一人ひとりが、出来る作業に参加した。畑で収穫した物を、食べる機会も設けた。
- ・外出については、一人1回の日帰り旅行を実施した。宿泊旅行が無くなった為、外出の頻度としては少なく感じる。
- ・環境面ではグループの生活棟より出入り口ができ、下駄箱を設置した。利用者の人数の把握をして活動へ出発できる様になった。
- ・6月に利用者さんが重症致死性不整脈で亡くなられ、当たり前で、朝が迎えられることに感謝の気持ちを持つ事ができた。
- ・7月、利用者の入所があった。不適切な行動が多くなり、12月～精神科に服薬調整で入院し3月に退院された。
- ・利用者さんについては、薬の見直しの為入院していた利用者さんも退院され現在は以前に比べ随分落ち着いて過ごされている。
- ・行事については、お楽しみ会で、間食作りをおこない利用者を楽しんでもらえた。
- ・健康面においては、12月に有熟者多数が発症し個室対応を行った。2月末には、インフルエンザが流行し2名の利用者が感染した。感染症予防の徹底を図る必要性を強く感じた。
- ・口腔ケアや清掃、除菌などの感染症予防を引き続き継続し、再発のないように努力する。
- ・利用者の人権を守り、統一した支援をおこなう。また、利用者・職員共健康に留意し、毎日を生き活きと過ごせるよう配慮する。

(久保宏子、福永真也、荒瀬好司、若床まゆみ、竹間和輝、濱本 豊、藤井秀樹、
上川清美、藤本将太郎、金田和夫、森宗明浩、川本亜由美、河合淳雄)

3 レインボーグループ

1 グループ目標

- ・言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。
- ・体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。
- ・安全で清潔な生活環境を提供する。
- ・楽しみのある生活を送る。

2 生活

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・活き活きとした生活を送られるよう支援する。
- ・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴になり、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

- ・排泄後の支援（ちり紙を渡す）を行う。
- ・朝食後、昼食後に全員排便誘導を行い習慣付を目指した。
- ・排便確認表を見やすく改善した。

運 動：午前の集い前ラジオ体操第1、午後の集い前ラジオ体操第2を行った。

寝 具：週一回日曜日にシーツ交換、また日常的な汚れはその都度交換した。布団乾燥機を使用して毎日2名ずつ布団の乾燥を行った。

- ・必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用。
- ・午睡用にリビングに夏はタオルケット、冬は毛布5枚を共有の物として使用した。

衣 類：年2回の衣替え・適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けをして交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。ミシン補修できる物に付いては適宜補修を行った。ソックス専用のケースを購入し倉庫に保管した。

日用品：在庫確認による常備。早めの発注を心掛けた。

掃 除：掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

- ・専用の床用モップ10枚、窓・ノブ等用5枚。
- ・床拭き（午前、午後、準夜帯）＊ 感染症発症時 … ピューラックス
その他の期間 … オキシヴィルファイブ
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き（一日1回、随時）
- ・トイレ掃除（一日3回）

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確

実な手洗いを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前のジェスパ。
顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。
髭剃り：起床後、個人用の電気カミソリでの髭剃り実施。(後期より時間を朝食後に変更)
散髪：定期的に実施。個々にあった髪型にする。
薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬や、皮膚疾患への薬の塗布を、食後、決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて医務との連携を取り処置をした。
毎食後、歯磨きの後に個人用リップクリームを塗布し唇の乾燥対策を行った。
加湿：感染症予防対策でクリーンボーイによる加湿を冬場に行った。
服薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。2名での与薬確認をし誤薬には注意した。
検温：朝全員の検温を行っていたが、3月より起床後、午後の活動前の2回に増やした。感染症時には検温時間を増やし、個室対応者用の検温表を作成した。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調等、日頃の様子観察をし、看護との連携を取る。細かいことでも看護に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

2) 口腔ケア

①目的：口腔衛生を保ち、歯周病を予防し健康な生活につなげる。

②内容：毎食後の歯磨き実施。

- ・適時、歯ブラシの交換。
- ・毎日2名ずつ、口腔ケアを行い歯周病防止に努めた。また口腔モニタリングシートに記録を行い、看護との連携を行った。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・1月からは昼食後の歯磨き時には全員コンクールを使用し、ブラッシングを行った。

③経過、課題

- ・細やかなケアにより歯周病を予防する。
- ・高齢化に伴い嚥下や咀嚼機能の低下を早急に発見し、さらなる悪化を防ぐ。

3) 活動

①目的：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容：月曜日～金曜日の午前

- ・きのこクラブ …… ホダ木の移動、植菌、水槽浸け、水槽上げ、椎茸の収穫。
落ち葉・草集め・枝木の整理。

(雨天、プレイルーム雑巾掛け、冬季はセンター内ウォーキング)

- ・生き生きクラブ…… 室内清掃、ウォーキング (雨天、冬季は室内ウォーキング)

③経過、課題

- ・きのこクラブは原木の運搬を中心に行い、水槽付け、水槽上げ、天地返しを行い、昨年度同様に単管パイプ設置場所に原木をふせ込んだ。
- ・午後からは創造活動として貼り絵を取り組み、季節の行事に合わせた製作作りを行った。また、学園周りのウォーキングも取り組んだ。
- ・学園入り口の畑を整地し、ハーブを植えてハーブ園を作った。作ったハーブは、レインボーレクの際にご家族に提供したり、ハーブティーを作って利用者に提供した。
- ・活き活きクラブは運動中心メニューから日常生活動作による運動を取り入れ生活棟内の窓拭きを中心にタオル畳みも取り入れてそれぞれの利用者に合わせた取り組みを行った。
- ・レインボーグループ中庭に設置したプランターの植物にも適宜水やりを行った。

4) 環境

①目的：怪我のない安全な空間を提供する。利用者が楽しみを持って生活出来る環境作り。

- ・破損した物の修繕と交換。

②内容：破壊行為等による破損は営繕係と協力をして早めに対処を行った。

- ・畳みなど生活に関わる部分の改善変更を行った。

③経過、課題

- ・畳みを通常から洗える畳みに全室変更
- ・破損箇所特に壁穴については随時修繕し営繕との協力をしてスピーディーな修繕を行えたと思う。
- ・今後も利用者が破壊に至らない支援を前提に不測の事態には早い修繕が出来るよう再度必要物品の補充を行っていく。

5) ブログ

①目的：ホームページのブログを通じて利用者の生活や外出した様子を、家族や各方面に発信する。

②内容：行事や日課、日々の生活風景等を毎日紹介した。

①経過・課題

- ・撮影対象者の一ヶ月ごとの予定表を作成した。一ヶ月で全員が紹介出来るよう配慮したが、感染症の時期など予定通り行かない事もあった。
- ・レインボーグループの利用者は一定の方向を見たり動きを止める事が難しい面もあるので全体写真を撮る時は少し多めに写真を撮り、その中から写真写りの良い物を選ぶようにしたい。
- ・今後も写真を撮る際は身だしなみなどに注意しながら撮影していきたい。

6) 日課、日誌

①目的：日課を変更毎に更新を行った。

- ・確実、かつスムーズに支援する為の日課表の作成を心掛けた。
- ・利用者の状況や確実な支援が行える為の日誌様式の変更を行った。

②内容：一日の流れと勤務形態を分かりやすく記載した。

- ・利用者の動きや日課の流れを確認して記載した。
- ・ミスの起こらない支援ができるよう、各マニュアルの変更と徹底化を行った。
- ・居室への施錠記録欄を追記した。
- ・日中の食数や夜勤4名に従い、申し送りの時間や夜勤Lの追加を行った。

・利用者の状況に応じて変更を行った。

③経過・課題：定期的に日誌様式の見直しを行った。今後も行っていく。

7) 処遇改善

①目的：業務の省力化、効率化、見直し。

・情報の交換や提案を行う。

②内容：施設内メールの掲示板を活用して、情報の交換や提案、職員への周知を行い、業務の改善に役立てる。情報を集めて来年度へ向けて活用する。随時、会議を利用して検討、改善を行った。

③経過・課題

・日課や取り組みの変更、利用者対応の情報など、さまざまな懸案事項について、勤務日以外の職員にも毎日の様子や経過を伝えたり、改善案を提案してもらう事で、業務の改善に役立ったと思う。

・まだ効率悪く仕事をしている所があると思うが、時間や対応の難しさ等の様々な理由で改善が出来ていない面も多くある。

・問い掛けに対し、意見が出にくい課題がある。

・日々、改善出来る事はないか考えながら業務をおこない、職員からの改善提案を出し易い方法を模索していく。

3 行事

1) 誕生者外出

①目的：誕生日を迎えた事を感じてもらう。

・誕生日に担当職員と外出やお祝い会を行い、親睦を深めてお祝いをする。

②内容：誕生日の日（もしくは近日）に午後から外出をする。

外出日	年齢	外出先
4月4日	43歳	モスバーガ、県立みよし公園
4月16日	51歳	センター宿泊室 遊歩道
4月23日	41歳	三次運動公園
6月30日	39歳	sign428、県立みよし公園
6月30日	48歳	sign428、県立みよし公園
7月27日	68歳	湧永満之記念庭園・セブンイレブン
7月27日	50歳	湧永満之記念庭園・セブンイレブン
8月5日	52歳	CCプラザ
8月8日	42歳	SHOT三刀屋店、珈琲・レストラン21番館
8月31日	48歳	三次運動公園・コンビニ
9月28日	54歳	センター宿泊室
10月9日	43歳	風土記の丘、ブラン
11月3日	45歳	コンビニ、尾関山公園
11月10日	48歳	カフェヴァイン・しまむら
11月24日	46歳	三次運動公園
11月27日	50歳	センター宿泊室

11月30日	50歳	センター宿泊室
12月13日	43歳	CCプラザ
12月27日	44歳	フタバ三次店、ブラン
1月19日	47歳	セブンイレブン・三次市内ドライブ
2月10日	29歳	センター宿泊室
2月15日	38歳	センター宿泊室

③経過、課題

- ・誕生日である事を理解してもらい、年齢や興味など、個々の利用者にあった外出やお祝い会を計画していく事が課題である。

2) レクリエーション

①目的：季節感のあるレクリエーションを提供する。

②内容：レインボー会議のある日の午後に、季節に応じたレクリエーションを行う。

実施日	行事名	場所	内容
4月9日	お花見会	君田遊園	お弁当会食、散歩
8月3日	夏祭り	センタープレイルーム	ゲーム、かき氷
12月5日	忘年会	センタープレイルーム	たこ焼き、スライド上映
1月7日	新年会	センタープレイルーム	会食、ドライブ
3月6日	お楽しみ会	センタープレイルーム	カラオケ、パフェ作り

③経過、課題

- ・天候にも恵まれ、概ね予定通りに実施することができ、花見や夏祭りなど季節を感じて頂ける事が出来たと思う。

3) バスドライブ・バスハイキング

①目的：ドライブすることによって気分転換を図る。

- ・普段と違う場所での散策を楽しむ。

②内容：レインボー会議のある日の午後にマイクロバスと8人乗りワゴンに分乗してドライブ。

- ・昼食のお弁当や間食を持って行き、山や公園で食べたり、散歩や遊具で楽しんでもらった。

実施日	行き先	参加人数
5月11日	三次運動公園	22名
6月6日	作木カヌー公園	22名
7月6日	風土記の丘	21名
9月7日	北の関宿	22名
11月5日	ふのフルーツランド	22名
2月4日	北の関宿	22名

③経過、課題

- ・7月の外出では1名の体調不良者があり、全員で参加出来なかったが、その他の月については全員参加で実施する事が出来た。
- ・散策や遊具で楽しむ時間をしっかり取り、のんびりとした時間を過ごせてもらえた。

- ・利用者は特別の間食や出掛ける事自体を毎回楽しみにしていた。
- ・季節によっては感染症対策の為、無理のない外出を計画した。

4) 外出

①目的

カフェ外出

- ・外出することにより気分転換をはかり、通常生活の励みにする。

お楽しみ外出

- ・好きな昼食を食べ、一日をゆっくと過ごし、気分転換を図る。
- ・色々な経験の場を提供する。
- ・食べること以外の楽しい体験をしてもらう。

②内容

- ・カフェ外出は平日（主に火曜日）の午後
- ・お楽しみ外出（一日を通して楽しいことを体験してもらう外出）

実施日	内 容
5月10日	カフェ外出：食彩館ゆめさくら・上野公園
5月19日	お楽しみ外出：SHOT三刀屋店、大阪王将
5月24日	カフェ外出：三次運動公園、トレッタ三次
6月7日	カフェ外出：益田オーストリッチ牧場
6月14日	カフェ外出：吉田ゆめタウン
6月20日	お楽しみ外出：カラコロ工房、今井書店
7月12日	カフェ外出：県立みよし公園 コンビニ
7月26日	カフェ外出：orangefazz、風土記の丘
8月2日	カフェ外出：上ノ原牧場、カドーレ
8月12日	カフェ外出：ジョイフル
8月23日	カフェ外出：ショッピングセンタージョイフル
9月13日	カフェ外出：県立みよし公園、コンビニ
9月15日	お楽しみ外出：福山自動車時計博物館、イトーヨーカドー
10月4日	カフェ外出：高谷山展望台、一休庵
10月20日	お楽しみ外出：伍楽荘、ドライブインミッキー
10月25日	カフェ外出：神楽門前湯治村
11月8日	カフェ外出：土師ダム、コンビニ
11月14日	お楽しみ外出：SHOT三刀屋店、宍道湖自然観ゴビウス
11月22日	カフェ外出：道の駅 たたらば壺番地
3月14日	カフェ外出：三次運動公園、ワイナリー喫茶店

③経過、課題

- ・利用者の方は、外出をととても楽しまれていた。
- ・利用者の好みや興味にあわせた外出を計画できたかは分からないが、楽しんで過ごして貰う事は出来ていたと思う。

- ・今年度からは宿泊旅行を廃止し、カフェ外出とお楽しみ外出を行った。

5) レインボーレクリエーション

平成28年10月8日（土）利用者22名 17家族26名参加

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：ともえ学園 療育センター

③内容

- ・センター玄関で受付、プレイルームでご家族の方だけでオリエンテーション。
- ・利用者はオリエンテーション終了後にご家族と合流。集合写真撮影。
- ・午前クイズラリーとフォトムービー鑑賞
- ・午後クイズラリーの答え合わせ、表彰、間食作り（ホットケーキ）
- ・閉会

④経過・課題

- ・クイズラリーの問題表記が難しかった事、事前の説明が不足していた事で記述式の問題を選択問題と勘違いされていた方が数名おられた。説明をする際に、スクリーンを使用し、分かりやすくする必要があった。
- ・アンケート回収の際に記念撮影の写真とグループで育てたハーブの個包装したものを記念として渡した。
- ・全体的に時間に余裕を持って進める事が出来た。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、個別処遇、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

②内容

- 4月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 倉庫などの整理整頓について クラブ活動や日課について 掃除の時間について 施錠する居室の確認 食事の時間について ケースカンファレンス（4名）
- 5月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 人権委員より 利用者についての注意事項や関係について確認 クラブ活動 日課の確認 ケースカンファレンス（7名）
- 6月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 クラブ活動 人権委員から 服薬について ひげ剃りの更新について ケースカンファレンス（1名）
- 7月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 運動について ケースカンファレンス（3名）
- 8月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 服薬と下膳について リーダー業務について 午後の活動について テレビについて ケースカンファレンス（5名）
- 9月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 クラブ活動 口腔ケアについて 衣類整理について レインボーレクについて 文化祭について 業務について ケースカンファレンス（2名）
- 11月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 玄関と中庭について 文化祭について クラブ活動 ラキソベロンについて 髭剃りに関して 業務について 日課の確認 ケースカンファレンス（5名）

- 12月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 クラブ活動 中庭、下駄箱について 業務について 食事について 音響について ケースカンファレンス（7名）
- 1月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 エアコンについて クラブ活動について 生活衛生係より 下駄箱について ケースカンファレンス（1名）
- 2月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 アセスメントについて 与薬について 感染症対策での意見 トイレ誘導について クラブ活動について エアコンについて ケースカンファレンス（3名）
- 3月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 消耗品について 来年度の行事について 日課について クラブ活動 事業報告と支援の必要度について ケースカンファレンス（2名）

③経過、課題

- ・毎日の業務については、よりスムーズに業務が行えるよう担当者を変更したり確認したりしながら話し合った。また、職員間で臨機応変に対応し、お互いをカバーし合う事が出来たと思う。支援については利用者さんの様子や変化について、ケース担当者を中心に意見交換を行いながら、支援の統一を図るよう話し合った。利用者の様子や思いは、いつも同じではないので今後もお互いの情報を報告、確認しながら支援していく事が必要だと思った。

5 まとめ

- ・今年度も、クラブ活動としては月～金曜日の午前中のみ行った。午後からは、ウォーキングや雨天時や冬期は破れた衣類の再利用した布貼り絵を行った。
- ・環境面ではグループの生活棟より出入りができる、グループだけの玄関を設置してもらった。下駄箱の位置等でまだ少し混乱はあるが時間と共にスムーズに適応できると思う。
- ・利用者さんについては、薬の見直しの為入院していた利用者さんも退院され現在は以前に比べ随分落ち着いて過ごされている。
- ・健康面については、癌の再発による治療、腸閉塞の為入院された利用者さん、パンを喉へ詰まらせ救急搬送されたり、今までに見られなかった大きな発作なども見られた。加齢と共に体力低下も早い様子で今まで以上の様子観察、異常の早期発見が必要。また、他傷、自傷等での怪我も多く、見守り支援や個別対応も必要だった。また、2月には利用者22名全員がインフルエンザA型に罹患し自室での静養となった。
- ・来年度も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行っていく。また個々に応じた方法で体力を維持し、健康に過ごしてもらえよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

（藤田由香里、岩戸洋三、堂西美保、高場修治、桑田樹実、菅原献司、
林 宏典、見土 唯、竹林祐樹、熊澤誠治、中野基行、藤井佑紀）

4 はなまるグループ

1 グループ目標

- ・利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重し、健康で豊かな生活を支援する。
- ・清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

2 生活

1) 環境改善

①目標：快適かつ個別配慮された生活環境の整備を行う。

- ・建物、建具の損傷、改善に努め、補修、交換、修繕、改良を行う。

②内容：1日に廊下を3回、窓やドアノブを2回、居室を2回、掃除を行った。

- ・冬場は換気も含め5分程度窓を開け空気の入換えを行った。
- ・定例外泊時には掃除場所を決め普段行き届かない所の掃除を行った。
- ・居室のエアコンフィルター交換を行った。
- ・インフルエンザ流行中は加湿器をフル稼働させた。

③まとめ：建具の損傷については確認した上、宮繕係に対応してもらった。宮繕の日にエアコンフィルターの掃除を行った。

- ・外での活動が困難な日は利用者玄関のリフォームを行った。
- ・冬季や感染症が流行っている時期は、随時加湿機能付き空気清浄機を使用し加湿した。
- ・廊下、窓やノブ、居室の掃除を入念に行うことで感染症を若干名に留める事が出来た。

2) 衛生・口腔ケア

①目的：感染予防と対応

- ・健康維持

②内容：入浴後も含め指示された軟膏塗布・消毒を看護のチェック表に基づき確実にを行った。

- ・個々の健康状態の把握に努め、看護との連携を深め、迅速な処置、必要な受診を速やかに実行できる体制作りに努めた。
- ・午前、午後の活動後や食事前の手洗いうがいの実施、手指消毒を徹底した。
- ・毎月1回体組成測定を行い、健康管理に努めた。
- ・歯磨き支援として毎月4回、24名全員行い、口腔内のチェックを実施した。チェック表を看護職員と共有する事で速やかに歯科受診の検討をしてもらった。
- ・毎週土曜日に爪切り、日曜日に血圧測定を実施した。
- ・夕食後の歯磨き終了後、全員の歯ブラシをピューラックス液に浸け、消毒を行った。
- ・昼食後と夕食後は全員仕上げ磨きを行った。
- ・歯ブラシの毛先が開いたら交換を行った。
- ・床拭きやドアノブ等をオキシヴィルファイヴを使用し1日2回行い、感染予防を徹底した。インフルエンザ罹患者が出たときには、ピューラックスで1日5回の消毒を行った。
- ・季節の変わり目には、衣類整理、布団干し等を行った。
- ・トイレ倉庫、洗面所下の戸棚の整理を行った。
- ・コップ乾燥機の台を更新を行った。
- ・消耗品の補充や更新を行った。

③まとめ：入浴後の軟膏塗布はチェック表を使用し確実にを行った。

- ・体調の悪い人には早めに対応し配慮できたが、自分から体調の不調を訴えることが難しい方に対しては日頃の様子観察から把握する。
- ・手洗いうがい、手指消毒を徹底して行ったことで、体調を崩すケースは少なかった。
- ・毎週土曜日の爪切り、日曜日の血圧測定は衛生と健康状態の把握の1つになった。
- ・月2回、口腔状態の観察で、虫歯の発見や、口内炎の発見、看護と情報を共有し早めに歯科受診が出来るようになった。

- ・仕上げ磨きの回数を増やすことで出血など口腔内でのトラブルも減少している。
- ・今後も食事や睡眠時間、口腔ケアに注意し、毎日の生活が精神的、肉体的に安定した状態で規則正しい生活で過ごして頂けるように努めたい。
- ・天候が良い日には布団を中庭に干すことが出来た。

3 処遇改善

- ①目的：日課の見直しを随時行い、利用者の皆さんが過ごしやすいようにする。
- ・個別の取り組み等、日課の中に取り込みスムーズに実施できるようにする。
- ②内容：随時、日課の見直し変更を行い実施していった。リハビリを自室での実施に変えた。
- ③まとめ：クラブ活動の内容は充足されたが、興味を持たれない方も少なくなかった。
- ・リハビリを自室で実施する事に変更し確認が難しくなった。
 - リハビリの効果を求めるなら見直しが必要と思われる。

4 午後日課

- ①目的：規則正しい生活をする事によって、生活のリズムを身に付ける。
- ・健康的で潤いのある生活が送られるようにする。
 - ・スポーツや畑作りを取り入れ、精神的なストレスを緩和し心の健康を図る。
- ②内容：運動
- ・マシン
 - ・創造活動
 - ・プール外出
- ③まとめ：午後の活動について、運動とウォーキングをメインに行った。
- ・運動では球技や自転車などを行った。また球技大会が近い時は、出場する種目であるフライングディスクやゲート通しの練習を行った。
 - ・ウォーキング、主に園内の遊歩道や学園周りで行った。
 - ・マシン運動は日課への取り入れが上手く出来ず、希望者のみの個人参加になった。興味を持って頂けるような働きかけや成果を実感できるような取り組みについて、工夫が足りず消極的だったと思う。
 - ・創造活動は季節の行事に合わせた塗り絵や絵画、和紙を使ったしおり作り、紙飛行機、粘土細工、行事の飾り作成などを行った。また、電子オルガンを使用した音楽活動、利用者皆が好きな物を歌詞に取り込んだ作曲活動を行った。
 - ・プール外出はグループを5班に分け、4～5人の利用者と2名の職員で5月から11月までの週1回、布野健康福祉センターのプールに出掛けた。利用者には良い気分転換となる外出となったようだった。
 - ・野菜の収穫期には臨機応変に午後からも野菜クラブの活動を行った。
 - ・しいたけの収穫、乾燥までの流れを作り、数名の利用者に関わってもらった。

5 クラブ活動（午前）

- ①目的：活動を通して日課に添った安定した生活の提供と楽しみや、やりがいを感じて頂く。
- ②内容
- ・クリーンクラブ：5名
- 衣類たたみ、タオルたたみ、食堂前廊下掃除、脱衣室の床拭き、生活棟の床拭きと窓ふき
軍手洗い、軍手干し、軍手を束ねる、洗濯室の掃除、乾燥機の掃除

・リサイクルクラブ：9名

缶リサイクル：空き缶の収集、分別、缶潰し、売却

紙リサイクル：新聞と広告の分別、段ボールの整理、売却

大田金属への売却回数と金額…アルミと紙の合計 14回 79,130円

・紙・木工クラブ：5名

牛乳パック和紙作り：牛乳パックを洗う、切る、剥がす、契る、紙漉、細工、乾燥

・野菜クラブ：4名

種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜き、溝掃除、倒木の整理、面積の広い畑の区分け

③まとめ：職員を各クラブ専属で配置を行ったが、効率性などの効果はそれほど得られなかった。

紙クラブについては年度途中で内容変更をし、木工作业を行ってもらった。利用者の適性など、今後に向け検討すべき点があるので、随時見直しを行っていく。しいたけの収穫から乾燥までの一連の作業工程が定着してきたので、この作業に従事してもらう利用者の人数を増やしていきたい。

④課題：雨天時や午後活動の充実

6 行事

1) グループ行事

①目標：季節の良い時期は出来るだけ外出し、感染症などの流行る時期は学園内で行いメリハリの生活を送る。

・季節に合う行事を行う。

②内容

月	日	行事名	場所
4	11	花見会	尾関山
5	7	ハイキング	風土記の丘
6	8	バスドライブ	世羅道の駅
7	4	バスドライブ	なかつくに公園
8	6	納涼祭	ともえ学園、プレイルーム
8	16	在園者外出	高野河童公園
9	9	バスドライブ	三江線電車乗車
10	10	はなまるレク	フルーツランド布野
11	3	藤兼祭	藤兼神社及び藤兼地区
11	7	バスドライブ	湧永庭園
12	9	忘年会	ともえ学園、プレイルーム
1	11	新年会	出雲大社三良坂分院
2	10	はなまるレク	ともえ学園、プレイルーム
3	3	お楽しみ会	高宮湯の森

③まとめ

- ・四季を感じていただける行事を提供できたと思う。
- ・外で間食を摂ることで学園生活に潤いを与える。

2) 宿泊旅行

①目的

- ・ 宿泊旅行でしか経験できない体験や見学を行う。今年度は外泊のない方のみ宿泊旅行を設定した。

②内容

11月17日～18日 参加者：中野、小山、平光 引率：藤、今中 場所：しまなみ街道、今治

③まとめ

- ・ 出来るだけ利用者の意見を尊重し起案出来たと思う。
- ・ 宿泊旅行でしか体験できない場所や見学も出来たと感じた。
- ・ 今後、外泊の無い人も増えるので宿泊旅行を増やしていくことも課題となる。

3) 外出（お楽しみ外出／日帰り旅行）

①目的

- ・ お楽しみ外出：嗜好の合う2名以下で参加し行動することで安定した生活に繋げる。
- ・ 日帰り旅行：社会性を身につける

②内容

（日帰り旅行）

実施日	参加人数	場所
4月21日	3名	島根海洋館アクアス
5月19日	3名	キララ多伎
6月16日	2名	三次市市内
7月14日	3名	松江市
9月12日	3名	福富道の駅
10月5日	3名	上ノ原牧場
11月10日	3名	交通科学館
3月23日	2名	御調町

（お楽しみ外出）

実施日	参加人数	場所
4月13日	2名	灰塚ダム、出雲大社三良坂分院
5月12日	2名	三次ワイナリー、フタバ図書
6月2日	2名	ザビッグ
7月28日	2名	北の関宿
8月22日	2名	トムミルクファーム
9月21日	2名	サングリーン、三次運動公園
10月20日	2名	フタバ図書、マクドナルド
12月13日	2名	廣文館、モスバーガー
3月16日	2名	フタバ図書、マクドナルド

③まとめ

- ・ 出来るだけ利用者の意見を尊重し発語の不十分な方々には個人に合う場所の設定に努めた。

- ・今年度は冬の感染症の流行する時期の外出を控えたため、お楽しみ外出は2名での参加とした。特に問題は無かった。職員も2名引率するので安全性や支援が充実して行えた。

4) はなまるレクリエーション

平成28年10月10日（月） 利用者24名 18家族24名参加

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：ともえ学園・フルーツランド布野

③内容

午前中は学園内で裂き織りづくりを行い、午後はフルーツランド布野にてリンゴ狩りを行った

④経過・課題

学園外でのレクリエーション（リンゴ狩り）は御家族には概ね好評だった。

屋外でのレクは天候に左右されやすいので、雨天時のプログラムもしっかりと立てておく必要がある。

7 グループ会議

①目的：利用者の生活向上と充実したサービスの提供を目指し、環境・個別処遇・各活動について課題を提起検討する。

- ・ケースカンファレンスを行い、支援についての意識統一と利用者に対する理解を深める。
- ・各部署との意見交換、情報交換、協議。

②内容

4月 虐待防止について、クラブ活動、プール外出、日課について、ケースカンファレンス

5月 虐待防止について、食事座席、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他

6月 虐待防止について、服薬について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他

7月 虐待防止について、クラブ活動、プール外出について、ケースカンファレンス、その他

8月 虐待防止について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他

9月 虐待防止について、レクについて、文化祭、発表会について、ケースカンファレンス

10月 与薬について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、レクについて

11月 クラブ活動について、感染症予防について、ケースカンファレンス

12月 感染症対策について、ケースカンファレンス、生活棟内の改装について

1月 虐待防止について、実習生受入について、ケースカンファレンス

2月 虐待防止について、クラブ活動について、ケースカンファレンス

3月 来年度について、業務内容について、ケースカンファレンス

③経過・課題

- ・虐待防止についてニュース等で取り上げられる事があり、議題に挙げられる事が多かった。
- ・会議への参加者全員が発言できるよう進行を心掛けたが、誰もが意見を出せるまでには至らなかった。
- ・積極的に会議に参加出来るような雰囲気作りなど、進行役としてのスキルアップを図る必要が有る。

8 まとめ

- ・今年度は2名の職員の異動があったが、利用者への影響はそれほど大きな物ではなかった。
- ・午前のクラブ活動は4つの所属グループの中で活動してもらったが、活動に出る事が難しくなった利用者もあり、職員の配置等課題が残った。

- ・午後の活動において、外部からの講師を招いての書道やフラワークラブへの参加は利用者の気分転換と同時に利用者の可能性を見出せる時間にもなった。
- ・年度後半にインフルエンザが流行ったが、手洗い、うがい、マスクの着用など予防策を講じた効果もあり、グループ内での流行は抑えられたように思う。
- ・利用者の高齢化に伴う体力の低下など、今後対応していく必要性を強く感じている。健康で楽しく過ごせる取り組みを多く実施できるよう、スタッフ一同努力を続ける。

(塚本博志、山地恵子、渡邊 武、魚見敏満、中岡健太郎、藤 頼久
高森 強、佐々木優希、今中竜司、掛川陽介、瀬戸 彩)

5 医療

1 バイタルサインのチェック・症状チェック・経過観察について

- ・感染症流行時期は、1日2回全利用者の体温測定を実施し、症状が早期発見できるように努めた。
- ・感染症流行時期以外も必要に応じて体温測定を継続して、早期対応できるようにしている。
- ・高血圧治療中の利用者は、症状や経過にあわせ定期的に血圧測定を実施し、血圧変動の把握を行った。
- ・水中毒、悪性症候群に対する早期対応のため、リスクの高い利用者のバイタルサイン、体重変動の観察を行った。
- ・脂質異常症、肝機能障害、腎機能障害、糖尿病、貧血に対して症状の観察を行い、必要時は嘱託医へ相談し早期対応を行った。

2 受診判断と受診・治療、処置の実施について

- ・緊急の受傷や症状については、経過観察するもの、嘱託医来園の際に報告・相談するもの、緊急で受診をするものを判断し、受診の調整を行った。
- ・定期受診（内科、整形外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、精神科）に関しては、症状と状態に合わせて定期的な受診と受診調整を行った。
- ・学園内で行う処置は、医師の指示があるものは医師の指示どおり行い、安全性・清潔性に努めて処置を行った。

3 与薬管理・医薬品管理・医療機器管理について

- ・各利用者に処方されている薬の薬事情報は常に最新化し、内服薬の把握に努めた。
- ・内服薬のセット時には常に最新化した薬事情報を確認しながら作業を行うことで、誤薬予防に努めていった。
- ・個包の錠剤については昨年から使用している分包機を活用し、可能な薬を一包化することでセット時の効率化を図り、また与薬時の個包の紛失の予防を図った。
- ・調剤薬局でも一包化可能な薬については、引き続き一包化を依頼した。
- ・医務室内の医薬品、医療機器の点検・管理を定期的に行い、必要時・緊急時の使用に備えたことでスムーズに使用することが出来た。

4 フットケア・スキンケア

- ・入浴後は全員に保湿ローションや保湿クリームを塗布し、スキンケア対策を行った。
- ・特に足底部の状態の悪い利用者については、食後や寝る前にも症状に応じて塗布を追加し、また靴下の着用を促し効果が得られた。
- ・確実にスキンケアが継続出来るように、各グループ毎に保湿クリーム、ワセリン等を準備・補充

し必要な環境設定を行った。

- ・うおのめのある利用者については、皮膚科医の指示のもとスピール膏処置を実施し2名の利用者のうおのめが改善した。

- ・皮膚科症状が強い場合は、早めに皮膚科受診を行い適切な薬の処方を受けた。

5 口腔の健康、口腔ケア・歯科受診について

- ・毎週火曜日に4～5名ずつ歯科受診を行った。

- ・生活支援員による毎食後の歯磨きと、各利用者毎月2回ずつ口腔ケアチェックシートに沿った歯磨き支援が実施され、その結果を参考にして歯科受診の予定、調整を行った。

- ・緊急で口腔内の異常に気づいた場合は、その都度、歯科へ連絡して受診の調整を行った。

6 難病対策

- ・定期受診で経過をみながら、内服管理・体調管理に努めた。

7 肝疾患対策

- ・7月の新規入所者に対しては、B型肝炎抗体検査を行い、HBs抗体（－）に対して現在、抗体獲得のためB型肝炎ワクチン接種を行っている。

- ・定期健康診断の採血結果から嘱託医の指示のもと、管理栄養士と連携し11名の利用者へ肝臓病食の提供を行った。

8 がん対策

- ・定期受診で経過をみながら内服管理・体調管理に努めた。

9 感染症予防について

- ・平成29年2月中旬、インフルエンザA型がアウトブレイクしたが、内科受診しタミフル投与が行われ、重症化する利用者はおらず、3月初旬に終息した。

- ・インフルエンザ発生時には速やかに保健所への連絡を行い、保健所の指導のもと毎日の感染状況の報告と対応の確認を行った。

- ・感染症流行時期にかかわらず、一年を通して発熱時・嘔吐等の症状に対しては個室対応を行い、症状に応じた簡易検査の実施や早めの病院受診を行った。

- ・感染症流行時期の検温時間・回数の変更を話し合い、早期対応を行った。

- ・広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC）から発令される情報を確認しながら、消毒薬の変更やその他必要な予防策を実施した。

10 自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、行動障害、強度行動障害の治療と看護について

- ・症状が不安定な利用者については早めに対応を検討し、対応困難な場合は嘱託医へ相談し変薬・増薬が行われた。

- ・精神科定期受診中の利用者については、精神科担当医へ定期的に症状を報告し、変薬・増薬が行われ、症状の強い場合は臨時受診を行い対応した。

- ・入院治療が必要と判断された場合は、入院調整や退院調整を行った。

- ・変薬などの治療方針の変更時には、その都度ご家族へ報告を行った。

- ・問題行動に対しては、各部署情報共有し常に支援方法、環境設定などについて話し合い対応した。

11 定期健康診断、生活習慣病予防、健康増進、介護予防の実施

- ・利用者70名に対して1年に1回、定期健康診断を実施した。

- ・利用者定期健康診断は医師の指示のもと、採血、心電図、胸部レントゲン、口腔健診、便潜血、便微生物検査、検尿、BMI、身長・体重測定を行った。

・定期健康診断で異常の指摘があった場合は、医師の指示のもと早めに再検査や病院受診を行い、また医師や管理栄養士と連携し、療養食（脂質異常症食、肝臓病食など）の提供を行い、健康の維持管理に努めた。

・対象者のみ、薬物血中濃度採血を半年に1回実施した。

12 感染防止、医療安全、医薬品、医療機器管理等ガイドラインの作成と実施、評価

・新たなガイドラインの作成はなかったが、感染防止策や医薬品の取り扱いについては、状況に応じて必要な場合は見直しや検討を行い、関係部署へ周知し対応していった。

（櫻井永子・畠原由美・川崎明日香）

6 栄養食生活

1 はじめに

衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、また多彩な強化磁器食器を使用し、個々に応じた細やかな配慮のある食事作りに努めた。また、毎日の真空調理の活用で、少数の職員でも複雑なメニューを作成し、提供した。

2 栄養量

生活活動強度は「やや低い」を用い、常食の目標量と実質摂取量は次の表のとおりであった。

	目標量	実質摂取量
エネルギー（kcal）	2,350	2,401
たんぱく質（g）	76.0	80.5
脂質（g）	56.9	65.3
カルシウム（mg）	600	630
鉄（mg）	7.5	10.9
ビタミンA（IU）	2,500	2,692
ビタミンB1（mg）	1.11	3.47
ビタミンB2（mg）	1.23	1.31
ビタミンC（mg）	100	145

3 栄養ケアマネジメントの実施

障害（児）者が自立して快適な日常生活を営み、尊厳ある自己実現をめざすためには、障害（児）者一人ひとりの栄養健康状態の維持や食生活の質の向上を図ることが不可欠であることから、個別の栄養健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施し、アセスメント、栄養ケア計画書の作成、実行、3か月毎の再スクリーニング、モニタリングを行い栄養健康状態の維持や食生活の質の向上に努めた。

4 療養食

糖尿病食・肝臓病食・胃潰瘍食・脂質異常症食・痛風食・腎臓病食を利用者の病状に応じて提供した。

5 食事形態

常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者に応じて提供した。

凍結含浸調理法を取り入れて、見た目は常食と同じ形態でも中まで柔らかく、咀嚼が少なくても食べていただけるように提供した。

6 誕生日お祝い

利用者誕生日には、お祝いとしてコーヒーゼリー、豆乳プリン、豆乳コーヒープリン、マンゴープリン等デザートを作成し提供した。

7 間食

間食は、全グループ統一して午後に提供した。

月1回月末には、手作り間食を提供した。

4月：「二色いちごババロア」

5月：「豆腐レアチーズケーキ」

6月：「サイダー割梅酒ゼリー」

7月：「ビールゼリー」

8月：「芋もち」

9月：「南瓜ケーキ」

10月：「スイートポテト」

11月：「大学芋」

12月：「ぜんざい」

1月：「パンプディング」

2月：「煮りんご入り米粉焼き菓子」

3月：「コーヒープリン」

8 正月料理

元旦昼食に雑煮、お節料理を提供した。

(後田喜代子)

7 事務

1 目標

- ①事務の正確かつ迅速な処理を行い、学園内外の連絡調整を緊密にし円滑化する。
- ②外来者に対して常に明るく笑顔で接し、適切且つ迅速な対応に心がける。
- ③電話対応では明確な対応に心がけ、速やかにかつ丁寧に対処する。
- ④必要な情報の共有と公開を積極的に行い、円滑な事業の推進に寄与する。
- ⑤OA機器の活用を推進し、業務省力化を図る。

2 内容

①事務

・ 支援費の請求、窓口での受付、入退所手続き、療育手帳・保険証・重度障害者医療受給者証・自立支援医療受給者証の管理、各種印刷物の作成、行政機関との連絡調整、その他

②庶務

・ 文書收受・発送、福利厚生、パソコン・プリンター・コードレスホンの管理、その他

③経理

・ 財務会計処理、利用料等の請求、親の会会計、親睦会の会計、物品購入、職員給与計算、調査統計、出張命令稟議書の作成、その他

3 まとめ

上記の業務については社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を基本として日々行った。

これからも原理原則を基本に、利用者、利用者家族、職員に信頼され、厳正でかつ平等に日々遅滞

なく確実に遂行していきたい。

(高田孝康・清政圭子)

8 防災管理

1 目的

- ・災害発生時は、速やかで適切な対処となるよう危機管理体制を充実させる。
- ・消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を積む。
- ・緊急時への対応能力向上を図る。

2 新任職員対象の防災研修会の実施

1) 研修内容

①利用者不明時の対応

日勤帯、夜勤帯の連絡方法など・施設個所の確認・危険物の取り扱いと理念
日常的な利用者の所在確認と要注意事項

②消防関係：「防災マニュアル」を資料として基礎知識を習得 消防設備及び施設設備を実地見学

③AED、人工呼吸器、吸引掃除機の設置場所、操作説明

3 緊急時の対応

「吸引掃除機」を食堂の手洗いの下に、いつでも使用出来る状態で保管、点検を随時実施。

「人工呼吸器ユニット118番」と「AED」は職員室と医務室に各1台ずつそれぞれ常置。

4 毎月消防訓練実施

①夜間想定総合訓練 5月・6月・7月・8月（消防署3名立ち会い）・9月・10月・11月・12月 2月・3月

②昼間の総合訓練 4月・1月

※毎月消防訓練実施結果記録票を記載し保管した。

8月、2月 消防署へ消防訓練実施計画書・結果報告書提出

5 新任職員防災研修：4月1名、5月1名、2月2名

6 消火器使用訓練：新任職員2名と平成14年度以前の経験職員4名対象

実施日：6月18日（土）4名 6月23日（木）2名

7 消防設備定期点検：9月、3月 専門業者に委託し実施

8 消防署立入検査：9月30日（金）3名来園 … 指摘事項なし

(宮崎静美)

9 安全運転管理

1 目標

- ・交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する。
- ・車輛の点検、整備を実施し車輛の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意する。

2 内容

- ・トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加

- ・安全運転管理者講習会への参加
- ・安全運転啓発の図書、幟を掲示
- ・各季の交通安全運動の周知
- ・車輛の点検、整備を業者に依頼

3 まとめ

- ・トライザセーフティinひろしまへ参加した10チーム中9チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。全チーム目標達成は出来なかったが、前年度に比べ達成チームが増えたことは、日頃から安全運転を意識できていた結果であるとも言える。今後も注意喚起を増やし安全運転の徹底を図り、全チーム目標達成が出来る様にしたい。
- ・定期的な車両点検は元より、日々の確認を確実に行うことで、いつでも安全に車輛を使用出来る状態にしておく。(塚本博志)

10 危険物取扱者

1 概要

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行っている。

2 内容

毎月、掲示板、漏油検知管、通気管、消火器の有無等の点検を行った。

(後田喜代子)

11 運営会議

実施概要

- ・園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催し協議した。
- ・会議では、利用者主体の指針を見失わないように、問題提起、課題検討、日程調整等を行い、施設のより円滑な運営と利用者サービスの向上を目指した。
- ・資料など、紙は一切使用せず、プロジェクターを利用して、随時必要な情報はインターネットからも収集し会議を進めた。
- ・会議後は速やかに会議録をまとめ、即日、全員に周知した。

(高田孝康)

12 支援部課長会議

実施概要

- ・支援部長と支援課長の4名で構成し、毎月、月末に翌月の運営会議開催日までに会議日を設け、予定調整や利用者支援についての協議、意見交換、情報を共有し利用者サービスの向上を目指した。
- ・会議の経過及び結果は会議録を作成し、業務の統一を図るため全員に周知した。

(宮崎静美)

13 サービス担当者会議

実施概要

- ・ケース担当者、グループ課長、看護師、栄養課長、サービス管理責任者、子鹿障害児等相談支援事

業所相談支援担当者の6名で構成、毎月中旬より10～12名の方を対象に実施し、サービス内容について協議した。利用者の状態像の変化などにより、計画の見直しする際にも実施した。平成29年1月より、ご家族にも参加をしていただける様に会議の案内を行った。

- ・毎月会議日を調整し開催して行った。施設障害福祉サービス計画（長期）・（短期）作成後には、各ご家族に送付し計画書の承諾を得た。

（宮崎静美）

1 4 朝礼

実施概要

- ・参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。
- ・開会挨拶、服装と身嗜みのチェックから始まり、各グループ、全体係、その他からの報告、予定などの報告、出勤職員の体調状況の報告、笑顔の練習、最後に閉会挨拶で終了する。
- ・毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った。
- ・発表者の声の大きさやマイクの位置などを再確認し、さらに聞き取りやすい環境を整えていく。

（高田孝康）

1 5 園内行事

- ・一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として毎月学園内で計画実施した。

1 花まつり

- ①日時 平成28年4月8日金曜日10時15分～11時15分 ②場所 療育センター・プレイルーム
会場に設置された花御堂の屋根に花を飾り付けた後に、グループ代表者が誕生仏（お釈迦様）に甘茶をかけてお焼香と合掌後、続いて一人ずつ全員が甘茶をかけ、最後に甘茶を頂いてお祝いをした。

2 活動披露会

- ①日時 平成28年5月9日月曜日10時00分～11時15分 ②場所 多目的棟
各グループ活動の報告後、グループ順に「植菌作業」「種植え」の体験。終了後には多目的棟に集合しジュースで乾杯した。雨天のため、サツマイモの苗植えは行えなかった。

3 ミニレク祭

- ①日時 平成28年6月12日日曜日13時50分～15時5分 ②場所 療育センター・プレイルーム
テーマにあわせ各種のゲームが楽しめる内容だった。身近にある物を使用して作成した空気砲や的当て、タコ釣り等があり、皆さん各ゲームを楽しまれた。

4 七夕祭り

- ①日時 平成28年7月7日木曜日14時00分～14時50分 ②場所 療育センター・プレイルーム
数名の利用者さんが、浴衣を着て参加され雰囲気を感じる事が出来た。スクリーンに七夕の動画が流れ短冊に書かれた内容紹介があり、最後に「七夕の歌」を全員で合唱した。

6 物故者追悼式

- ①日時 平成28年8月8日月曜日10時15分～11時00分 ②場所 療育センター・プレイルーム
物故者紹介、黙祷、追悼の言葉、献花、献歌、閉会后、参列者全員に飲み物を配布。物故者の紹介では、スクリーンからの映像を懐かしそうに見ておられる方もあった。献花した花は追悼式後、ともえ会のお墓にお供えした。

7 大掃除・ワックス掛け

日時 平成28年8月11日木曜日 9時00分～

学園内の大掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインする事で効率良く行った。

8 全体活動

日時 平成28年8月11日月曜日 9時10分～15時30分

生活場所の大掃除のため、利用者は2班に分かれて「作木カヌー公園」まで外出。昼食は療育センターで、外注弁当を提供。また、プレイルームでは、スクリーンに映像を流した。

9 スポレク祭

①日時 平成28年9月25日日曜日 10時30分～14時40分 ②場所 グランド・多目的棟

午前は、紅白玉入れ、ストラックアウト等を行い、午後からは健康体操を河原田講師を迎えて行った。

10 収穫祭

①日時 平成28年10月22日土曜日 10時00分～15時00分 ②場所 畑・センター多目的棟

午前は、各グループの畑で芋掘りを行い、沢山のサツマ芋が収穫できた。午後からは多目的棟で御神輿も入場し、場は盛り上がった。実りの秋と収穫に感謝し榊奉納が行われた。

11 文化祭

①日時 平成28年11月9日水曜日 10時30分～15時00分 ②場所 療育センター

午前には各グループの発表会、午後からは各ブース（①ゲーム②喫茶③フラワーアレンジメント）を体験しながら回って楽しんでもらった。

12 クリスマス会

①日時 平成28年12月25日日曜日 13時40分～15時30分 ②場所 療育センター・プレイルーム

クリスマスツリーは利用者代表の方により点灯された。グループ発表があり、クリスマスソングのカラオケや合唱、合奏があった。係職員がサンタクロース、トナカイ、スノーマンの衣裳を着て、プレゼントを利用者さんに渡していった。

13 餅つき

①日時 平成28年12月28日水曜日 10時00分～14時40分 ②場所 療育センター・プレイルーム

グループ別に餅つきを実施。午前にはなまるグループとレインボーグループ、午後はトライアングルグループの順だった。沢山の利用者が餅つきや餅もみの体験をされた。

14 平成28年 年間報告

日時 平成28年12月30日金曜日 報告者：各部署部課長 親睦会会長

各部署より400字程度の報告文を提出、園長より総括とともに全員へサイボウズにて周知された。

15 職員年賀式

①日時 平成29年1月6日水曜日 9時～9時5分 ②場所 ともえ学園 職員室

朝礼の要領で整列し朝礼前に次長の進行により開会。一同礼の後、園長の年頭の挨拶、年男、年女4名の職員による今年の抱負。最後に新年を祝い、ぶどうジュースを全員で乾杯した。

16 年賀式

①日時 平成29年1月6日金曜日 10時30分～11時20分 ②場所 療育センター・プレイルーム

園長より年頭の挨拶、年男・年女の紹介、代表者挨拶、鏡開き、乾杯、獅子舞披露があった。

17 とんど

①日時 平成29年1月16日月曜日10時30分～11時30分 14時10分～15時00分

②場所 駐車場裏空き地

係長の挨拶により開始、年男の代表者はトーチを持って「とんど」に点火。当日は雪が降り、除雪後にとんどを組む事ができた。また、積雪の為に利用者はセンター2階からの見学とした。午後からは食堂で竹酒、お餅を焼いて提供。

18 節分祭

①日時 平成29年2月3日金曜日14時00分～14時50分 ②場所 療育センター・プレイルーム

「節分」の由来を説明…節分にちなんだスライドショーで説明、各グループの制作物紹介がありカラーボールを豆に見立てて、天井から吊された大きなくす玉に投げ一年の健康長寿を願った。鬼と福の神に職員が扮した事で場は盛り上げられた。

19 活動報告会

①日時 平成29年3月9日木曜日13時50分～14時40分 ②場所 療育センター・プレイルーム

グループ毎にスライド写真が流れ活動内容の説明があり、一年間の各グループの成果と評価、リサイクルクラブで得た年間売上の報告もされた。各グループの代表者に賞状が渡されたあと乾杯があった。乾燥椎茸や鉢植え、創作活動の作品の展示。学園で収穫した野菜入りの豚汁が昼食で提供された。

(宮崎静美)

16 対外行事

他施設や地域の方々との交流や親睦を図りながら、地域社会の理解を深める事を目的に実施。

1 広島県西部地区知的障害関係施設親善球技大会

①日時 平成28年5月15日日曜日10時00分～15時30分

②場所 広島修道大学 グラウンド、体育館 ③参加者 利用者11名 職員7名

参加競技は、ゲート通し 団体3名1組(3名)、フライングディスクアキュラシー(8名)

結果:「フライングディスク」4位入賞(1名)

2 ひろしま障害者フライングディスク競技大会inみよし

①日時 平成28年9月4日日曜日8時45分～15時30分

②場所 みよし運動公園テニスドーム ③参加者 利用者9名 支援職員4名

アキュラシー7m(一定の距離に置いた輪に10投し通過した枚数を競う)に参加。

結果は、20・30代の部ー優勝と3位 40代の部ー2位と3位 50代の部ー3位

競技後、ビンゴ大会があり参加された。

(宮崎静美)

17 外泊

1 ゴールデンウィークの外泊 3方面(広島、呉、大竹)に車両を運行

送り…4月29日 金曜日 迎え…5月5日 木曜日 車両を運行した。

外泊者数37名(療育センター宿泊利用1名) 学園車両使用者数:送り24名 迎え18名

※送迎:福山方面は利用希望1名で運行無し。迎え:呉方面利用希望0名で運行無し。

2 お盆外泊 2方面（広島、大竹）に車両を運行

送り…8月10日 水曜日 迎え…8月17日 水曜日 車両を運行した。

外泊者数31名 学園車両使用者数：送り18名 迎え18名

※送迎：福山方面 利用希望無し。呉方面 利用希望1名で運行無し。

送迎車両を利用されない方は、随時、ご家族の希望日に外泊を実施した。

3 外泊送迎廃止

外泊送迎利用件数が減少し、今年8月の送迎を最後に、外泊送迎は全て廃止した。

ご家族へ廃止までの連絡については、6月親の会茶話会で提案、7月親の会例会で再度説明、ご理解を得た。今後は外泊依頼を随時受け付けていくようになり、ご家族に無理のないように声をかけたりするなど、外泊に関する相談への対応は丁寧に行っていきたい。また、学園での宿泊についても希望の有無を聞き、ご利用の場合は説明していききたい。

(宮崎静美)

18 虐待防止委員会

内容

- 1 「虐待防止のための計画づくり」…虐待防止の研修や、マニュアルやチェックリストの作成と実施、掲示物等ツールの作成と掲示等の実施計画づくり。
- 2 「虐待防止のチェックとモニタリング」…虐待防止の取り組みの実施プロセス
虐待防止チェックリスト、個々の支援体制の状況（課題）、発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況等の現況を踏まえて、どのような対策を講じる必要があるか具体的に検討し、職員への研修計画や各部署の職員が取り組む改善計画に反映させ、虐待防止マネジャー（部課長）を中心とした各部署での具体的な取り組みを指示。
- 3 「虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討」…虐待や疑いが生じた場合、行政の事実確認を踏まえて施設で事案を検証の上、再発防止策を検討し、実行に移す。

まとめ

- ・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。
- ・各部署での具体的な取り組み方法を策定していく。

(前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、後田喜代子)

19 人権委員会

1 年間目標

- ・利用者、職員同士に於いても人権侵害、暴力、暴言は絶対に行わない。
- ・体罰を用いた支援は絶対に行わない。
- ・礼節ある言葉遣いとプライバシー保護への配慮をする。
- ・専門職間の相互支援による孤立の予防（より開放的にして関わる）

2 具体的重点目標

- ・利用者の呼称は「さん」付けで統一する。
- ・上下関係での叱責語・命令語及び乱暴な言葉は使わない。

- ・高圧的で威嚇するような働きかけはしない。
- ・利用者に対する人権侵害が起きる前段階で、職員同士で声を掛け合い侵害を未然に防ぐ。

3 実施内容

- ・具体的重点目標を毎月実施し「振り返り」を行う事で、支援の見直し、質の向上に取り組んだ。職員から出た意見は毎月まとめて全職員に周知した。
- ・各部署で目標を発信し、問題があった場合は、随時係で検討し改善に向けて発信した。
- ・人権意識を持って対応する事を忘れる事がないように、人権係でポスターや標語を、管理棟職員室に掲示して啓発活動を行った。

5月…（宮崎） 7月…（藤井） 9月…（高場） 11月…（山下） 1月…（山地）

4 まとめ・今後の課題

毎月人権についての目標を掲げ全体で取り組むように発信し、翌月には振り返りをした意見を皆さんから出してもらった。振り返ることによって人権意識の向上へ繋がったように感じた。引き続き啓発活動は継続し、**人権意識が高まるように働きかけていきたい。**

（藤井秀樹、高場修治、山地恵子、山下英明、宮崎静美）

20 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。結果としては、地域生活への移行や地域との交流、エンパワメントの視点などについての評価が低かった。今後は、利用者の活動の講師招聘やボランティア受け入れ、地域行事への積極的参加等検討していきたい。委員会独自の活動や取り組みを行わなかったため、意見の収集など積極的に実施したい。

（高田孝康、宮崎静美、後田喜代子、岩戸洋三、荒瀬好司、福永真也）

21 環境整備

1 目的：施設外を中心に清潔、安全に保ち、気持ちのよい生活環境、来園者にも良い印象を与えられるように環境整備を行う。

2 内容

- ・学園周辺の草刈り（草刈りを行う）
- ・FOXの修繕と管理（掃除や色塗り）
- ・遊歩道整備と管理（安全に散歩ができるように倒木の伐採や草刈りを行う）
- ・山の管理（下草や枝木の切り落とし）
- ・日中活動の下準備

3 まとめ

- ・7月～10月まで月に2回、11月～3月まで月に1回行った。
- ・昨年度に続き防草シートをセンター横とハウス前に施行した。
- ・防草シート施行後は、芝桜の植栽を、日中活動で行った。
- ・仮払い機は故障が多く使用出来ないことが多かった。
- ・冬季椎茸栽培用のハウスは大雪のため2度目の倒壊、積雪の対策が不十分だった。
- ・学園入り口の整備は行き届いていたが遊歩道の管理が不十分であった。

- ・限られた作業日程で天候に左右されるため十分な対応は困難であった。

(魚見敏満、福永真也、竹林祐樹)

2.2 運動マシン

1 目的：メニューの企画とマシンの保守管理

2 内容

- ・運動マシンの保守点検、トレーニングルームの環境整備。
- ・利用者の運動の必要性に応じ、運動マシンを活用する。
- ・バランスボールやストレッチバンドを使用したストレッチ。

3 課題・まとめ

- ・各グループの係の職員の判断で行ってもらった。
- ・各グループとも日課との兼ね合いやトレーニングへの興味喚起が上手く行えず、年間を通しての活動は殆ど出来ていなかった。
- ・運動マシンに対する職員や利用者の理解度が低く、有効利用が出来なかった。
- ・拒否や興味が続かないなど、マシントレーニングの実施自体が難しい利用者が多く、興味を引く為の工夫、効果的に実施する為の工夫が必要だった。

(渡邊 武、若床まゆみ、中野基行)

2.3 健康体操

1 目的：専門の講師に身体を動かす事について教えて頂き楽しみながら健康維持につなげる体操をする。身体を動かすことの喜びにつなげる。同じ環境や雰囲気での運動の場を提供し、声掛けにより利用者の変化や好み等を観察していく。

2 内容

講師：河原田聡美氏

日程：毎月1回 第二土曜日の午後を基本に講師と話し合いの上、日程を決定した。

3 実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	2	14	11	9	20	25	29	12	10	14	18	18

4 課題、まとめ

- ・ゲーム形式のショートサーキットを用意し、それらを通過する事で運動をして頂いた。
- ・楽しみながら運動する利用者の一人ひとりの様子を観察し、この一年間継続する事で利用者の変化などを観察した。
- ・ゲーム等を取り入れる事で、今まで参加出来なかった利用者が興味を持ち、スムーズに参加し身体を動かす事を目標とした。
- ・スポレクでは、各グループごとに分かれショートサーキットでの運動をご家族に見て頂き、その後はなまる利用者でのダンスを披露することが出来た。
- ・課題としては、楽しく運動することで張り切りすぎや、骨折や捻挫の危険性があるので職員が危険の無い運動できる状態で支援し、参加しにくい利用者が少しでも興味のもてる内容を提供して行く。

2 4 入浴

1 取り組み

- ・利用者が安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

2 内容

- ・シャンプー、ボディソープ、バスマジックリンなどの資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎月1回、土曜日の午前は、職員が浴室内外の清掃を行った。
- ・入浴支援担当表を作成しスムーズな職員配置を組んだ。勤務変更があった場合は随時変更した。病院などの受診など急な職員不足にも対応出来た。
- ・体調不良の個室対応の利用者がいた場合、入浴時間の変更を行い感染防止に努めた。
- ・バスタオル、洗体用タオル、職員用タオルを更新した。古いバスタオルは床拭き専用雑巾として、職員用タオルは雑巾として再利用した。

3 経過・課題

- ・脱衣室のレイアウトを変更し安全に広いスペースで着脱が出来るようにした。
- ・長椅子、足ふきマットを購入した。
- ・入浴支援では、夜勤が4人体制になった事で、安定して人員確保が出来た。
- ・資材等の発注では、ボディーソープ、シャンプー、洗剤等が少なくなると、声を掛けてもらい、足りなくなる事はなかった。
- ・消耗品の補充や備品の点検を定期的に行う様にしなければいけない。

(見土 唯、濱本 豊、高森 強)

2 5 洗濯

1 取り組み

- ・利用者の衣類等の洗濯をスムーズに行えるよう、洗剤等必要な物が不足しないように補充する。
- ・洗濯室を衛生的に保持する。
- ・大型洗濯機、汚物処理機等が故障しない様点検する。

2 内容

- ・洗濯洗剤、柔軟剤、ソフランシート、酸素系漂白剤、汚物洗濯機用洗剤類等の資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎週日曜日の午前は、早出職員が洗濯物畳みの後、洗濯室内の清掃を行った。
- ・雑巾の作成を行った。

3 経過・課題

- ・洗濯機の故障が相次ぎ、迷惑をかける事があった。
- ・夜勤リーダーがシーツ類を片付ける事になったので、洗濯室内にシーツが溜まらなくなった。
- ・洗濯室の床の目地にゴミが溜まっている。掃除時間の確保と衛生的な環境作りが必要。
- ・ボランティアの方にも協力してもらい、タオルを再利用した雑巾を作成した。今後も継続的に実施して行きたい。

26 衛生

1 目的

- ・「菌・臭い・汚れ」を取り除き、「安心・安全・快適」な環境の維持・提供
- ・感染予防

2 内容

- ・清掃（日常清掃・巡回清掃・定期清掃・特別清掃・空気フィルターの清掃）の徹底
- ・清掃時期、場所に応じた適切な薬剤の選択・補充・使用
- ・状況に応じた感染予防対策の周知と実施
- ・適正な物品の使用とチェック
- ・定期的なラウンド

3 経過・課題

- ・年間を通して清掃の徹底が行われたが、汚れや臭いの取り除きが不十分な箇所があったため検証していく
- ・平成29年2月中旬から3月上旬まで、学園内でもインフルエンザA型が蔓延した
- ・生活棟、床清掃用モップの更新を行った
- ・感染症流行時期の使用薬剤の変更のタイミングを把握し実施した。

(櫻井永子)

27 寝具

1 内容

- ・毎週火曜日までに寝具の発注用紙を記入。
- ・火曜日に寝具の搬入があり、その後リネンの係りが在庫の確認と調整をする。
- ・各グループへの在庫枚数の確認をし、リネン庫入口より左の棚に置く。
- ・在庫を確実にする為に在庫は最低限にする。リネン台帳を作りリネン室に置く。
- ・布団やシーツを汚した利用者についてはリネン台帳に名前を記入し、寝具を持ち出す。
- ・定期的に関リネン庫の掃除を行う。
- ・不潔リネン室に、業者より麻袋を置いてもらい土曜日に回収してもらう。
- ・血液・便の付着した掛・敷布団・毛布は洗わずに小さく丸めて黒ナイロン袋に入れて出し、回収してもらう。便の付いた物については便が付いていることを紙に書き、業者に分かるようにナイロン袋に入れておく。
- ・感染症に関わる汚染物が付着している場合黒色ナイロン袋に入れ袋に詳細を記入する。
- ・破れた寝具を返却する際には専用用紙に記入する。
- ・7月に掛け布団から毛布に、10月に毛布から掛け布団に変更。
- ・定期的に使用している寝具を取り替える。

2 反省

- ・納入時の数量違いが数回あり、納入業者へ誤配有りと訂正を求めた。
これは事項の数量違いの一因と思われる。

- ・帳簿が未記入で在庫との食い違いが見られた。
後納入時と払出時に数量を確認するようにし、再度実数確認をする。
- ・便汚染などの汚れの布団も適切に処理し、業者へ回収してもらう事が出来た。
- ・発注伝票の記入忘れがあったが、滞り無く適切にできた。
- ・また感染症発生時、寝具不足も発生したが滞り無く対応する。

(藤 頼久、川本亜由美、菅原献司)

28 営繕

1 目的

- ・依頼があれば、迅速、安く、丁寧に対応する。
- ・生活しやすい環境を整え整理整頓する。

2 主な実施内容

4月

- ・トライアングル中庭の掃除（1．2通りの間）・トライアングル壁修理（2箇所）
- ・洗面室1の鍵変更・206号室ベッド修理・女性棟の鍵交換・504号室壁修理
- ・レインボー髭剃り充電箱修理・レインボー倉庫内整理・はなまるリビングの窓下の壁修理
- ・はなまるリビングのテレビ裏の壁修理

5月

- ・2、3通り中庭の掃除・トライアングル職員室内の衣類フック取付
- ・トライアングル利用者玄関 横の長椅子修理
- ・元きのこ小屋横の畑周辺の草刈り・レインボー職員室 壁補修（窓側下部分一面）
- ・空き缶の表示・はなまる職員室のドア穴補修・営繕室片付け
- ・浄化槽のマンホール溝掃除、蓋の錆落とし、段差の確認・フェンス隙間の点検
- ・バスケットゴールの安全確保

6月

- ・トライアングル、電気シェーバーの箱作成・711壁補修・7通り洗面所の壁補修
- ・脱衣室の壁補修・グラウンドの草刈り・古椅子、廃材などの焼却・洗面室5のドア修理
- ・403号室 壁補修

7月

- ・ハーブ園周り草刈り・廊下壁紙剥がれ補修（403号室、405号室、506号室）
- ・居室壁紙 剥がれ補修 505号室・洗面所（5通り前）窓側つりぐ付け
- ・711 居室の壁紙張り・はなまる中庭の洗浄・205号室、306号室ネームプレート交換
- ・管理棟エアコンフィルタ交換・調理室ドアノブ交換（廊下側）・ゴミ倉庫の屋根の枯れ草等の処分
- ・生活棟樋の掃除・医務室の鍵交換

8月

- ・トライアングル職員室ドアマン交換・トライアングル倉庫の小窓修理
- ・トライアングル居室の鍵、ドアの隙間確認・305号室テレビの亚克力板取付
- ・312号室ドア修理、換気扇カバー取付・レインボー職員室前のトイレドアマン調整
- ・5、6通り 中庭の洗浄・はなまる全居室の鍵の確認と 注油・洗濯室のカギ修理

- ・711号室の壁 仕上げ・6通り洗面所の壁穴修理・はなまる畑整備・床下ピット内の漏水確認

9月

- ・トライアングルリビングの戸棚修理・トライアングルリビング横のトイレつまり修理
- ・トライアングル生活棟のビス、ネジなどの確認・トライアングルトイレの倉庫上の囲い作成
- ・女性棟トイレの壁修理・6通りトイレのドア修理・4通りトイレの壁修理
- ・706号室、709号室のカーテンレール交換・管理棟の窓の鍵点検・営繕室の掃除
- ・食堂の台拭きの鍵修理

10月

- ・107号室、312号室のドア修理・201号室ドアノブ修理・307号室、711号室壁修理
- ・308号室の音響機器設置、ドア修理・トライアングルリビングの戸棚修理
- ・501号室から512号室の蛍光灯アクリルカバー取り外し
- ・食堂マスクなどの収納ボックス固定・学園車輛まわり清掃・洗濯台車の修理

11月

- ・205号室、206号室カーテンレール取付・711号室壁紙糊付け
- ・308号室、502号室、506号室のドアの隙間調整
- ・食堂マスクなどの収納ボックス固定・洗浄室シャワーシンクのボールタップ接続部分の固定
- ・換気扇の掃除（特に汚れのひどい箇所）・居室ドアマンの調整

12月

- ・312号室押し入れドア修理・洗面室2ドア修理・トライアングル倉庫ドア修理
- ・営繕室清掃・脱衣室のカビ取り・4, 5通り廊下 壁穴補修・レインボー中庭側窓清掃
- ・洗面室4 掃除用具吊り具取り付け・リサイクル棟の自転車のタイヤ修理

1月

- ・洗面室1の壁修理・トライアングルトイレドアのヒンジ交換・食堂と生活棟の境のドアマン交換
- ・トライアングルとレインボー境のドアマン交換・4, 5通り廊下の壁修理
- ・512室、掃き出し 窓鍵解錠難ー調整・509室、カーテンレール取付
- ・4通り、小便器手すり締め付け・レインボー カーテンレール取付箇所 点検修理確認
- ・310室ドアノブ交換・5通りトイレ水道の修理・7通りトイレの換気扇の掃除
- ・プレイルームのエアコンフィルター掃除

2月

- ・トライアングル下駄箱ドアの交換（4ヶ所）・レインボー倉庫扉修繕
- ・レインボー洗面室クローザー調整・洗濯室クローザー調整・6通りトイレの壁紙破れ修繕
- ・6通トイレドアクローザー交換・7通りトイレの掃除用具入れにビス打ち込み板設置
- ・堂横廊下の壁修繕・センターの机イス倉庫の引き戸の確認・5通りトイレ便座固定
- ・レインボー、はなまる居室のエアコンフィルター掃除

3月

- ・各ドアの金属部分の塗り替え・トライアングル居室のドア調整
- ・トライアングル居室、管理棟、厨房などのエアコンフィルター掃除・312号室、壁修繕

3 まとめ、課題

- ・概ね計画書通りに作業することが出来た。
- ・ネジ類の充実で探す時間のロスが少なくなった。

- ・どうしても利用者さんが生活棟へおられる時間帯に作業をするため、工具・部品などの管理に注意が必要であり、時間を有効に使えない場合もある。
- ・営繕室の整理整頓が課題。

(藤井秀樹、中野基行、今中竜司)

29 食生活

1 目的：食堂の環境整備、清掃、備品の管理をおこない、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するため企画検討実施する。

2 内容

- ・各グループで必要に応じて利用者の席の変更を行った。
- ・手消毒用のジェスパを使用し食事前の消毒には気をつけた。
- ・毎週日曜日に各グループより一名ずつ集まり、食堂の汚れている箇所を清掃した。
- ・稟議書で一年間の掃除場所を固定し、年度初めに周知することで、毎月の周知を無くした。
- ・エプロンを新しく更新した。
- ・食堂掃除は昼は各グループでゴミを拾う。朝、夕は夜勤リーダーが拭き掃除を行う。
- ・食堂用台拭きの、1日の使用枚数を規定する台拭き使用マニュアルの見直しを行った。
- ・食数について、朝食は夜勤リーダーに確認。昼食数は朝礼での確認。夕食はグループごとに午後の間食時に数量を確認するように変更した。
- ・エプロン、台ふきんは12月より夜勤リーダーが洗濯、保管する。
- ・厨房から出す台ふきんは厨房遅出職員が終了するときに製氷機の上に使用した台ふきんを置く。
- ・厨房用の台拭きを更新し、職員で縫って補充する。
- ・厨房の台布巾を更新する際に、カラータオルが必要枚数用意出来なかったため、青色のタオルを使用した。(厨房はピンクと青色の2色を使用)
- ・食堂の椅子、テーブルを新しく更新した。

3 課題・まとめ

- ・消耗品の補充が出来ていなかった。
- ・座席表を貼っても取ることに拘るために座席表はトライアングルのみ貼っていた。
- ・はなまるはレインボーグループの席も使用し食事を摂った。
- ・昨年度の反省でもあった小さいスプーンが足りないため、スプーン購入をしてもらった。しかし足りない時も何度かあった。
- ・食堂台布巾(黄色)、厨房台布巾(ピンク、青)と区別してからは、食堂用の台ふきんの不足は無くなった。
- ・食堂用台ふきんが数枚雑巾に混ざっていた。
- ・台ふき管理の徹底が出来ておらず、次回の課題になっている。
- ・厨房の台ふきんを感染予防等を配慮して、厨房で洗濯保管してもらった方が良いのではないか。
- ・食堂掃除の時間の見直し。

(桑田樹実・藤井秀樹・高森 強)

30 ともえ通信

1 概要

- ・ともえ通信の編集発行と、平成27年度の事業報告書の編集発行。
- ・ともえ通信は毎月1日に印刷。ご家族、理事、評議員に配布し、同時にホームページに掲載。
- ・11月号からは職員の感想も募り次号の参考とした。

2 毎月の記事

- ◇5月1日発行 第337号 ①4月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④花まつり
⑤5月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇6月1日発行 第338号 ①5月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動披露会
⑤6月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇7月1日発行 第339号 ①6月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ミニレク祭
⑤7月の予定 ⑥編集後記
- ◇8月1日発行 第340号 ①7月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④七夕祭り
⑤8月の予定 ⑥新しい利用者さんの紹介 ⑦編集後記
- ◇9月1日発行 第341号 ①8月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④物故者追悼式
⑤9月の予定 ⑥編集後記
- ◇10月1日発行 第342号 ①9月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④スポレク祭
⑤10月の予定 ⑥編集後記
- ◇11月1日発行 第343号 ①10月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④収穫祭
⑤11月の予定 ⑥編集後記
- ◇12月1日発行 第344号 ①11月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④文化祭
⑤12月の予定 ⑥編集後記
- ◇1月1日発行 第345号 ①12月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④クリスマス会
⑤新年の挨拶 ⑥1月の予定 ⑦編集後記
- ◇2月1日発行 第346号 ①1月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④とんど
⑤2月の予定 ⑥編集後記
- ◇3月1日発行 第347号 ①2月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④節分祭
⑤3月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇4月1日発行 第348号 ①3月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会
⑤4月の予定 ⑥編集後記

(濱本 豊、見土 唯、今田弘之)

3 1 職員研修

1 職員研修会

①目的：研修の機会の提供・利用者支援技術の向上

- ・障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を認識するため

②内容

- ・5月21日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者13名
- 講師：安田女子大学教授 船津守久先生
- 内容：①「障害のある人との関わり」（資料とDVD）

②今年度の研修会についての討論会

- ・ 6月25日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者19名
講師：安田女子大学教授 船津守久先生
内容：①関わりに関する資料と関連するDVD
②事例検討（Kさん）
- ・ 8月19日（金） 18：10～20：00 センタープレイルーム 参加者19名
講師：三次消防署職員 3名
内容：「救命救急について」（心肺蘇生法の学習、ADEの使い方）
- ・ 9月24日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者20名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
内容：①DVDと「かかわりについて」の講義
②発達障害コミュニケーション初級指導者講習会DVD
第1巻 発達障害の特性について
- ・ 10月29日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者18名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
内容：①利用者さんとの関わりについての講義とDVD
②ハートネットTV 「障害者虐待防止法」（発達障害者も含む）
YouTube動画での鑑賞（約16分間）と質疑応答
- ・ 11月26日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者14名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
内容：①利用者さんとの関わりについての講義とDVD
②障害者虐待について～その2～
相模原事件について考える
- ・ 2月25日（土）※感染症流行の為、中止
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
内容：①障害者への虐待についての講義
②障害者虐待について～その3～
優生思想について
- ・ 3月25日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者10名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
内容：①障害者への虐待についての講義
②虐待についてのグループ演習

③感想

- ・ 船津先生に6回講義していただき、心理学を通して利用者への理解を深めることができた。
- ・ 参加者の増加を目指し、毎回各職員に参加を促す。初回は少なかったが、徐々に参加数が増えていった。
- ・ 映像を多用することで、実務経験の差があっても判りやすい研修会が出来た。また、映像を見ることで意見や感想が出しやすく、最初の方に比べ沢山の意見や感想がもられた。
- ・ 後半から2人1組での演習形式にした。一人で考えるより、二人で意見を出し合える事ができ沢山の意見を引き出す事ができた。

(竹間和輝、岩戸洋三、魚見敏満)

2 新任職員研修

- ・ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。研修資料を渡し、運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他、処遇関係、栄養課業務、看護課業務について研修を実施した。
- ・ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続した。
- ・新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々の様子や感想、困った事等はないか、いつでも聞ける体制を敷いた。
- ・実施時期 平成28年4月 対象職員：看護師1名 5月 対象職員：生活支援員1名
平成29年2月 対象職員：生活支援員1名・看護師1名

◇その他

新人教育チェックシートの実施。新任職員の修得してきた事の確認をするとともに、フィードバックを行い、新任職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために実施。評価は、自己評価に加えサポート職員や各部署の部課長による他者評価を取り入れた。新任職員のレベルアップに向けて行く。
(宮崎静美)

3 2 親の会

- 1 概要：ともえ学園入所者のご家族で組織されたものが「ともえ親の会」であり、事務局は親の会係として職員が担当しており、以下親の会の活動を紹介する。
- 2 事業
 - 1) 定例総会の開催
平成28年5月28日(日)於：ともえ学園療育センター 47家族67名の参加
 - 2) 役員会の開催
 - 1回目 平成28年5月28日(日)於：ともえ学園療育センター
 - 2回目 平成28年6月19日(日)於：ともえ学園療育センター
 - 3回目 平成28年7月24日(日)於：ともえ学園療育センター
 - 4回目 平成28年9月25日(日)於：ともえ学園療育センター
 - 5回目 平成28年11月13日(土)於：ともえ学園療育センター
 - 3) 外泊送迎の廃止について
 - 4) きずなの発行について
 - 5) 外部の研修会参加について
 - 6) 親善球技大会 平成28年5月15日(修道大学グラウンド)
 - 7) 分科会と全体会の開催 平成28年6月19日(日)於：ともえ学園療育センター
「分科会と全体会」 47家族63名参加
 - 8) 例会とお楽しみ会の開催 平成28年7月24日(日)於：ともえ学園療育センター
「例会とお楽しみ会」 49家族68名参加
 - 9) 研修会と利用者発表会の開催 平成28年11月13日(日)於：ともえ学園療育センター
「研修会と利用者発表会」 34家族63名参加
 - 10) 外泊の受け入れ、援助

◇平成28年 4月29日（金） ～ 平成28年 5月 5日（木）

◇平成28年 8月10日（水） ～ 平成28年 8月17日（水）

11) グループレクリエーションへの参加

◇レインボー 平成28年10月8日（土） 17家族、26名参加

◇トライアングル 平成28年10月9日（日） 13家族、15名参加

◇はなまる 平成28年10月10日（月） 20家族、24名参加

3 感想・今後の課題

- ・今年度も話し合いの場が多く設けられ、外泊送迎の停止など、様々な話し合いが行われた。
- ・利用者発表会では、各グループとも練習に励み、練習の成果を十分に発揮することができたが、グループの中では、出来る事が限られ、発表が難しいと言う意見が多く見られた。来年度は発表会の内容を少し考え直して行くべきではないかと感じた。
- ・グループレクリエーションは大きなトラブルも無く各グループとも好評だった。ご家族の高齢化に伴い、参加が難しく、グループによっては参加数が少なかった。
- ・今後のご家族の方の要望などを取り入れ、柔軟に対応できるよう努めたい。

（菅原献司、藤 頼久、上川清美）

33 ボランティア

1 概要

- ・ボランティアグループ三次の皆様への受け入れ企画、送迎などを行い、衣類補修、台拭き縫い、雑巾の作成、衣類のアイロン掛けをして頂いた。

2 施設見学

- ・希望された方には施設を見学をして頂き、利用者が生活されている様子などを見て頂いた。分かりやすいように配置図や学園の要覧などを渡した。
- ・ボランティアに来園された方々の承諾を得て、写真をフェイスブックに掲載させて頂いた。

3 作業

- ・作業に不足している物があれば来園された時に聞きながら補充を行った。
- ・ミシンは作業前に確認し直ぐに作業が取り掛かれるようにした。
- ・コードレス電話を廃止、新たに取り付けられたドアホンを使用し、不具合や困った事などは一度事務に連絡してもらい、その後に係が対応した。問題は無かった。

4 アンケート

- ・今後の対応を向上させるためにアンケートに回答して頂いた。
- ・来園者の皆様で話し合って1枚に回答して頂いた。

5 受け入れ状況

- ・ 5月23日 十日市地区 5名 見学あり
- ・ 9月26日 和田地区 3名 見学なし
- ・ 10月24日 八次地区 5名 見学なし
- ・ 11月28日 川西地区 4名 見学なし
- ・ 2月27日 河内地区 5名 見学なし

6 反省

- ・勤務の都合により2人で対応する事や勤務変更する事があった。
- ・送迎場所によっては移動に時間がかかる場合もあり、余裕を持って送迎を行う。
- ・アイロン掛けも行ってもらったが、アイロンカバーが汚かったため購入した。
- ・湯茶ではお茶とブラックコーヒーの希望が多いため、その都度、在庫の確認を行う。

(掛川陽介、熊澤誠治、森宗明浩)

3 4 見学

1 概要：電話等での依頼により、見学日、内容等の希望を聞き、行事予定表に沿って日程調整を行った。特に、生活棟の見学については、利用者への影響や、プライバシーの保護を優先し、時間帯をずらせたりなど配慮を行い実施した。

2 見学受入日

- ・7月13日 水曜日 3名 施設見学（一般）
- ・8月10日 水曜日 4名 施設見学（ご家族、広島市児童相談所、瀬野川学園）
- ・11月29日 火曜日 11名 施設見学（庄原特別支援学校PTA）
- ・3月24日 金曜日 2名 施設見学（ご家族、生活支援センター あさみなみ）

3 見学時にもえ学園の要覧を手渡し、アンケート用紙記入依頼も併せて行った。要覧は毎月、月初めに更新していった。見学者受け入れマニュアルを更新した。

(宮崎静美)

3 5 実習

1 目的：自閉症や知的に障害がある方たちに対して、支援方法や人権尊重をふまえた理念を実習生に伝え、福祉専門職に就くために必要な技能と知識の一端を学んでもらう。

2 受け入れ状況：

平成29年 1月23日～2月 1日（10日間）中国学園大学保育実習 1名

平成29年 2月14日～16日 20日～21日（5日間）広島県立三次高等技術専門校 1名

3 まとめ

①中国学園大学

- ・事前の施設訪問を行い、施設・利用者の特徴などを説明し施設見学を行った。
- ・自閉症に関して説明してあるDVDを貸し出し事前学習をしてもらい実習に入る前に理解を深めてもらった。
- ・実習終了後にDVDを見た感想と実習を終えての感想を提出してもらった。
- ・自宅から通えない学生であった為、療育センター宿泊室に宿泊してもらった。
- ・実習日誌については事前に配属部署の課長に設定してもらった日々の担当者により、スピーディーに書き込みができ、実習生とのやりとりもスムーズであった。
- ・食事を宿直室で食べてもらったのでゆっくりと食べて貰う事は出来たが、食事支援を経験してもらえなかった。
- ・同性介護と言うこともあり、入浴支援はしてもらわなかった。
- ・食事はアレルギーがあった様だが、厨房で配慮をもらった。

②広島高等技術専門校

- ・事前訪問は無かったが、事前に電話連絡にて調整を行った。
- ・初日にグループを回りながら施設見学をしてもらった。
- ・自閉症に関して説明してあるDVDを貸し出し学習をしてもらい 理解を深めてもらった。
- ・昼食は、会議室で職員と食べてもらうようにしていたが、宿直室を利用。
- ・実習ノートを書く時間を設定した。
- ・実習中、インフルエンザが流行したので、利用者への関わりや、日常の活動の様子などを体験してもらえなかった。

4 今後の課題

- ・実習の時期が感染症が流行する時期なので、活動の体験をしてもらうことが少なかった。
- ・時期的にも行事がなかった。行事に参加して貰う事が出来れば良かったと思う。
- ・実習ノートへの記入について、学園のマニュアルや理念などを理解し、共通な意識付けをして行く事も必要だと思う。

(若床まゆみ、熊澤誠治、掛川陽介)

3 6 あいさつ運動

- 1 主旨：あいさつ（挨拶）の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近づくと
いう意味があります。あいさつとは、自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の
心に近づいていく積極的な行為です。

挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしくお願ひします」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩です。

目標：「相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めて挨拶する」

2 実施計画

①利用者、職員間の挨拶を積極的に行う。

- ・あいさつレベル5の達成を目標とする。
- ・司会者に朝礼時と施設見学時にタスキと腕章を付けてもらい、「笑顔で」「元気にはっきりと」その日の出勤職員や各グループの利用者に率先して挨拶を行う。

準備物：タスキ、腕章

②職員室の掲示板に「あいさつ運動」のポスターを貼る。

- ・3ヶ月に一度、係員が交替で作成し貼り替える。(B4画用紙)
- ・自由に個性を生かし、標語や絵などのポスターを作成する。

(5月：高場、 8月：金田、 11月：田原、 2月：瀬戸)

③あいさつは、マナーや接遇にも関係しており、利用者や職員間の言動や態度などでこれは？と思われたことに対しては係員が各グループの課長と話し積極的に正していけるよう声掛けや態度で示していく。

- ・6月と12月は「挨拶強化月間」とし、職員室掲示板に表示すると共に係員は積極的に挨拶を行う。

④模範的な見本となる挨拶、姿勢、態度等を具体的に明示する

⑤その他

- ・現場を離れるときに、行き先や、仕事内容を明確に声を出して他の職員に伝えているか（報告

- ・連絡)の啓発を行う。
 - ・利用者に対する言動や態度にも注意をする。(相手に体を向ける、あいさつの仕方、同じ高さ目線に立ち挨拶をする。声掛けの仕方など)
- 3 実施状況(実施内容・変更点など)
- ・3ヶ月に1度管理棟職員室に、標語や絵などのポスターを貼り出した。
- 4 反省
- ・挨拶しない人に殆ど変化は見られず、意識改革は難しい。
 - ・3ヶ月毎の啓発ポスターは係職員の意識も低く、月替わりに掲示することが殆ど出来ず、毎回10日程度遅れてしまった。
 - ・6月と12月のあいさつ強化月間については各部署への啓発ポスターを掲示したが、取り組みを都度周知しなかった事で、職員間での意識は低かったように思う。

(高場修治、田原恵里、金田和夫、瀬戸 彩)

3.7 ゴミゼロ運動

- 1 目的:施設内外を清潔に保ち職員全体で住みやすい環境を整える。
- 2 清掃活動の取り組み

- ・年間の清掃場所と係員を決め清掃活動を行った。
- ・他の係や行事などで変更しながら人数の確保が出来るときに清掃活動をした。
- ・事前に場所と内容、参加者名を周知した。

参加者(各グループから1名、事務所又は厨房・看護から1名、ゴミゼロ運動係1名の4名)

清掃箇所	4月23日	土曜日	管理棟宿直室清掃
	5月28日	土曜日	学園正面玄関清掃
	6月25日	土曜日	管理棟職員室清掃
	7月23日	土曜日	男性更衣室
	8月27日	土曜日	学園正面玄関清掃
	9月24日	土曜日	洗濯室清掃
	10月22日	土曜日	管理棟宿直室清掃
	11月26日	土曜日	療育センター玄関清掃
	12月24日	土曜日	学園正面玄関清掃
	1月28日	土曜日	管理棟職員室清掃
	2月25日	土曜日	女性更衣室清掃
	3月25日	土曜日	洗濯室清掃

3 まとめ

- ・全体清掃活動は日頃掃除が出来ていない場所などを重点的に清掃出来る良い活動だと思う。
- ・15分の限られた短い時間での清掃活動だが、参加者が協力し合って効率的に活動を行えた。
- ・掃除場所の見直し(ゴミ倉庫は厨房で実施。代わりに女性更衣室を追加。)で変更することがあった。

(林 宏典、川本亜由美、山地恵子、松本和幸)

38 掲示物

1 活動

- ・管理棟職員室のホワイトボードに情報誌やカタログ、広報誌やお便りを掲示し、それと併せてサイボウズに題名、発行者、種別、掲示期限を打ち込み周知した。
- ・サイボウズ内に打ち込んだもので掲示期限を過ぎた物に関しては打ち込んだ職員が消去していきサイボウズ内の整頓にも留意した。
- ・掲示物は職員が協力して期限の過ぎた物を撤去し、職員間の連携も保てたと思う。
- ・見栄えが悪くならないようバランスを考えながら掲示した。
- ・期限の切れた書物はリサイクルへ活用することができた。

2 反省

- ・もう少し目を引く様な掲示方法を考えれば良かったと思う。。
- ・日々の生活や行事、外出などで役立つ情報をピックアップ出来れば良かったと思う。

(今田弘之、奥田崇喜、森宗明浩、藤井佑紀)

39 エコロジー

1 理念

- ・限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める
- ・施設内で実践できるエコ活動の啓発

2 内容

- ・エコ目標を決め、係を中心に啓発する。
- ・エコに関する標語を8月と12月に掲載する。

3 反省・課題

- ・今年度は、前年度に比べると、少しは予定通りに進める事が出来たが、やはり取りかかりが遅く切羽詰まった感じになってしまった。
- ・各グループの係職員との連携がとれていたとも言えないが、意見を聞く機会は持てたので、早くから実行していけば良かったと思う。
- ・学園以外の所では、どんなエコ活動があるのか、勉強して行くことが課題かと思う。

(堂西美保、竹間和輝、今中竜司、山縣圭子)

40 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。

ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。

ネットワークカメラへのリンクは削除した。

(前岡孝司)

41 広島県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会

1 概要

- ・広島県知的障害者福祉協会の各施設の支援スタッフ部会員として、施設から選任され参加した。
- ・サービス提供における必要な視点、支援技術の情報交換や他施設の見学を通して話しあいが

ら資質の向上に努める。

2 支援スタッフ部会義

11月9日 広島県知的障害者福祉協会第1回圏域スタッフ部会議

場所：障害者支援施設ひとは福祉会

1月25日 大雪のため中止

3 内容

- ・第1回：支援スタッフ部会の活動内容について
ひとは福祉会施設見学及び支援計画書の作成要領

4 感想

- ・第1回のスタッフ部会では、「ひとは福祉会」の施設見学ができてとても勉強になりました。よく見える道路沿いに、一般的に人気が高いアイスクリーム店を経営したり、地域住民にアンケートをとって施設と地域にどのような「場」が必要かなどを検討するという「地域密着」のあり方を知ることができました。第2回は大雪のため中止となりましたが、1度の施設見学もよい機会になりました。その他、去年は8月に第1回のスタッフ部会がありましたが、今年度は初回が11月と遅く、末端のスタッフには会議予定も解らないため、この部分での連絡調整が課題になると思います。

(荒瀬好司)

4 2 書道クラブ

- 1 目的：意識を統一して、書く楽しさを知る。
 - ・書くことにより精神の安定を図る。
 - ・作品を出展し、生活の励みとする。
 - ・書道が好きな利用者の楽しみを増やす。
 - ・展示される事でやりがいを見い出す。
- 2 内容：毎月1回、第3土曜日の午後から大作業室で行った。
 - ・4月～11月までは、外部講師を迎えて実施した。
(12月～講師の先生の都合で辞められた)
- 3 経過：講師の先生は、歌を一緒に歌ったり、詩の朗読等もして下さり、書を楽しむだけでは無い楽しみを提供して下さいました。
 - ・講師のご都合により来られなくなった後も、引き続き行っった。
 - ・ふれあい書道展(熊野町)へ出品を行っった。
 - ・利用者さん毎に書いた作品をを保管している。
 - ・親の会がある時には、展示を行っった。
 - ・2月からは、職員玄関へ展示した。
- 4 課題：楽しみにされている利用者さんもおられ、日常の会話の中にもクラブの話が出て来るので、新しい先生が決まるまでは、職員で引き続き行っう。
 - ・講師を探したい。
 - ・書道展が年に2回、三次福祉まつりへの展示等目標を設定する。

(上川清美、林 宏典、渡邊 武)

4 3 フラワークラブ

- 1 目的：専門の講師にフラワーアレンジメントを習い、経験を重ね、自信に繋げていく。
 - ・花を切ったり、生けたりすることを体験することで楽しさに繋げていく。
 - ・継続することで、利用者の変化や好み等を観察していく。
- 2 内容：5月から毎月、第3火曜日の13時40分～15時30分
 - ・2から3グループに別れ行った。
 - ・生けた花は、玄関に飾り、行事の時は、センターに飾った。自室へ飾る利用者もいた。
 - ・学園で咲いた花を使用したり、山に行き、花材を見つけてアレンジメントを行った。
- 3 経過：

5月17日	10名参加	6月21日	15名参加	7月19日	15名参加
8月16日	22名参加	9月20日	15名参加	10月18日	14名参加
11月8日	18名参加	12月20日	19名参加	1月17日	19名参加
2月21日	15名参加				

 - ・始めたばかりの時は、職員が花を切って手渡しをして、挿す位置なども示していたが、回を重ねる事に、利用者が思い思いに花を生けることが出来る様になってきた。
 - ・安全にハサミを使用出来る利用者には、自分で思う様に花を切って生けてもらった。
 - ・回を重ねる毎に個性的な作品ができる様になった。
 - ・親の会の行事の時には、展示を行った。
 - ・家族が来園された利用者の作品は、自宅へ持って帰ってもらった。
- 4 課題：行事に合わせて展示が出来る様に日程調整を行う。
 - ・利用者からの参加希望があれば、参加してもらおう。人数によっては、場所を考えて行く。
 - ・学園で咲いた花や山の木などを花材として使用していきたいので活動係と連絡を取り合う。
(若床まゆみ、熊澤誠治、掛川陽介)

4 4 施設整備

山側井戸ポンプ交換工事（能力低下による交換）

生活棟リビング床改修工事

給湯配管漏水修繕工事（床下ピット内で発生）

療育センター宿泊室修繕工事（外泊送迎中止に伴う家族宿泊への対応）

緊急連絡用ドアホン設置（ボタンを4か所増設し、全夜勤者へ一斉連絡）

裏庭へ職員用駐車場所の確保

LED灯への変更（ほぼ全ての照明のLED化完了）

中庭出入口改修工事（生活棟廊下から中庭への出入口を6か所新設）

空調設備改修工事（吸収式冷温水機から電気式エアコンへ交換）

進入路、遊歩道周辺樹木の伐採（森林組合に依頼）

療育センター2階トイレ便器交換工事（ほぼ全ての便器を洋式へ交換終了）

外壁塗装補修工事（塗装の剥がれや著しい汚れ箇所の補修）

遊歩道コードレスホンアンテナ増設（電波の届かない範囲の解消）

生活棟中庭出入口の段差解消及びスロープ設置工事（生活棟廊下から中庭への出入口新設）

居室及び廊下窓への遮熱フィルム貼付工事（破損時の飛散防止と遮熱、断熱）

電気錠コントローラー移設工事

平成28年度 事業報告書

平成29年 6 月 1 日発行

ともえ学園 (障害者支援施設)

〒728-0002 広島県三次市西河内町10250番地
電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934
E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp
URL <http://www.pionet.ne.jp/~tomoe/>
